

米の基本指針（案）に関する主なデータ等

令和 6 年 10 月
農林水産省

目 次

○ 主食用米等の令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し（令和6年7月公表基本指針）	2
○ 出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和6年9月）	3
○ 民間在庫量と需要量の比率（在庫率）の推移	4
○ 産地別民間在庫の状況（令和6年9月）	5
○ 相対取引価格の推移（平成24年産～令和6年産）	6
○ 長期的な主食用米の価格の動向	7
○ 令和6年産米の相対取引価格（令和6年9月の年産平均価格）	8
○ 6年産米の概算金の設定と相対取引価格の状況	9
○ 消費者物価指数の推移	10
○ 過去における米価と需要の関係について	11
○ 米の販売数量の推移	14
○ 精米歩留まりの状況について（事業者の精米実績）	15
○ 令和6年産水稻うるち玄米の1等比率及び前年産比較（9月30日現在）	17
○ 消費動向（①家計調査の購入数量、支出金額のトレンド）	18
○ 消費動向（②POSの販売数量、販売金額のトレンド）	19
○ 消費動向（③中食・外食への支出金額のトレンド）	20
○ 訪日外国人数の推移及びインバウンドによる米の需要増に係る試算	21
○ インバウンドによる米の需要増についての試算	22
○ 令和6年産の水田における作付状況（令和6年9月15日時点）	23
○ 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量	26
○ 令和6年産米の需要に応じた生産・販売の推進状況	27
○ 令和6年度の保管料支援のイメージ（米穀周年供給・需要拡大支援事業）	28
○ 政府備蓄米の運営について	29
○ 政府備蓄米の買入入札の結果	30
○ 加工原材料用向け政府備蓄米の販売について	31
○ コメ・コメ加工品の輸出実績	32
○ コメ・パックご飯等・米菓の輸出実績の推移	33
○ 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略 品目別輸出目標 「コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品」	34
○ 主なコメの輸出産地	35
○ 各国・地域で広がりを見せる「おにぎり」	37
○ 需要見通しの様々な角度からの検証	38

主食用米等の令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し（令和6年7月公表基本指針）

【令和5/6年の主食用米等の需給実績（速報値）】

(単位: 万トン)

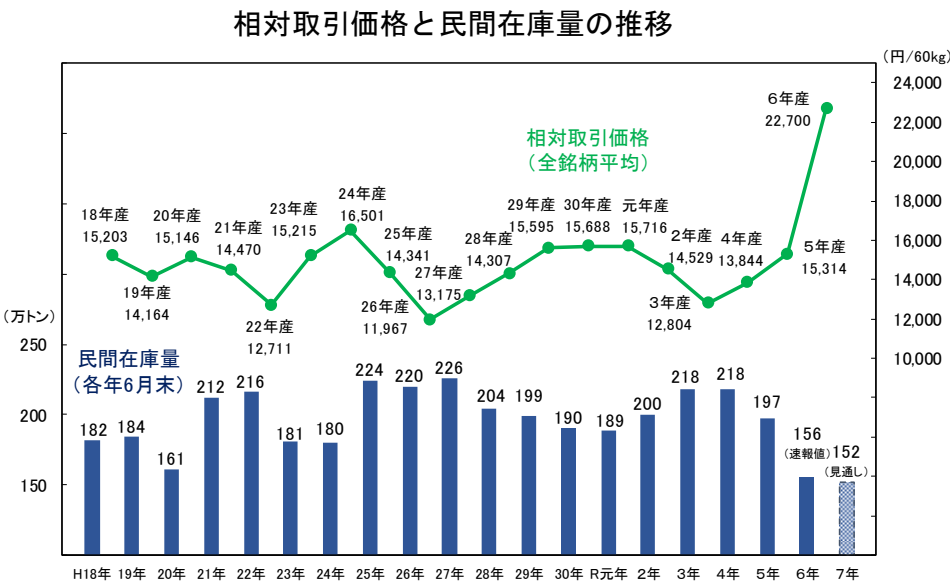
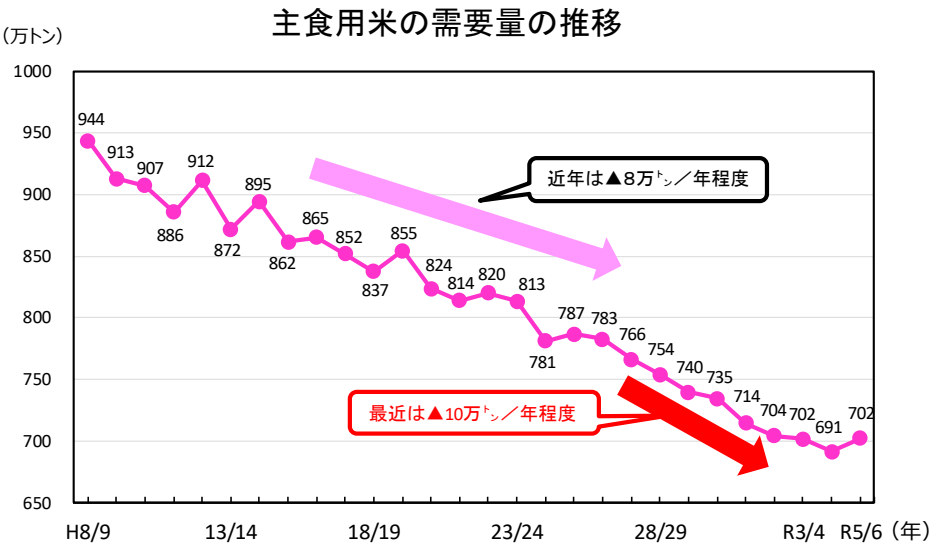
令和5年6月末民間在庫量	A	197
令和5年産主食用米等生産量	B	661
令和5/6年主食用米等供給量計 C=A+B		858
令和5/6年主食用米等需要量	D	702
令和6年6月末民間在庫量 E=C-D		156

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和6年6月末民間在庫量	E	156
令和6年産主食用米等生産量	F	669
令和6/7年主食用米等供給量計 G=E+F		825
令和6/7年主食用米等需要量	H	673
令和7年6月末民間在庫量 I=G-H		152

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和5年産は出回りから6年9月まで、令和6年産は6年9月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和6年9月）

○ 令和6年9月末現在の全国の民間在庫量は、出荷（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年差▲49万トンの150万トンとなっており、出荷段階は前年差▲47万トンの114万トン、販売段階は前年差▲2万トンの36万トンとなっている。

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
出荷段階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
販売段階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
6/7年	82	65	150									
対前年差	▲40	▲39	▲49									
出荷段階	58	44	114									
対前年差	▲38	▲34	▲47									
販売段階	25	21	36									
対前年差	▲3	▲5	▲2									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～7年6月である。

5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

民間在庫量と需要量の比率(在庫率)の推移

- 令和6年9月末の在庫量は150万トンとなっており、平成23年（134万トン）を上回り、平成30年（151万トン）とほぼ同水準となっている。
- 令和6年9月末の在庫量を年間の需要量で割った比率（在庫率）は22%であり、平成23年9月末（16%）を上回り、平成29年から令和元年9月末（21～23%）とほぼ同水準となっている。

【在庫率の推移】

年	需要実績	上段:在庫量(出荷段階+販売段階) 下段:在庫率(月末の在庫量÷年間の需要量)												基本指針 ベース 6月
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
		(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	
20/21	824	66	48	134	325	351	346	322	293	257	221	195	148	212
		8.0%	5.8%	16.3%	39.5%	42.6%	42.0%	39.1%	35.6%	31.2%	26.8%	23.7%	18.0%	25.8%
21/22	814	113	93	164	349	380	372	347	320	267	228	191	154	216
		13.9%	11.4%	20.1%	42.9%	46.7%	45.7%	42.6%	39.3%	32.8%	28.0%	23.5%	18.9%	26.5%
22/23	820	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118	181
		14.4%	12.4%	25.9%	42.8%	45.4%	44.3%	41.3%	37.1%	29.0%	24.4%	19.0%	14.4%	22.0%
23/24	813	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113	180
		10.2%	6.8%	16.5%	36.6%	40.2%	39.3%	35.8%	31.8%	27.5%	22.7%	18.1%	13.9%	22.1%
24/25	781	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157	224
		10.0%	7.9%	21.4%	43.1%	45.7%	44.9%	41.5%	37.5%	33.8%	29.3%	24.3%	20.1%	28.6%
25/26	787	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190	220
		15.3%	13.2%	26.7%	46.8%	50.0%	49.5%	45.5%	42.0%	37.0%	32.8%	28.3%	24.2%	28.0%
26/27	783	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168	226
		15.2%	13.2%	25.3%	44.0%	47.0%	46.6%	43.8%	40.1%	35.8%	31.1%	26.6%	21.5%	28.9%
27/28	766	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147	204
		17.0%	14.6%	24.0%	41.9%	44.5%	44.0%	41.0%	37.5%	33.2%	28.5%	23.9%	19.2%	26.6%
28/29	754	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141	199
		15.1%	12.3%	23.5%	41.6%	44.8%	43.6%	40.6%	37.4%	32.9%	28.1%	23.5%	18.7%	26.4%
29/30	740	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134	190
		14.6%	11.9%	21.0%	38.3%	42.6%	42.0%	38.9%	35.6%	31.6%	27.2%	22.6%	18.1%	25.7%
30/元	735	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131	189
		13.9%	11.8%	20.6%	39.2%	41.5%	41.0%	38.4%	35.1%	30.9%	26.1%	21.9%	17.8%	25.7%
元/2	714	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154	200
		13.9%	11.1%	22.5%	41.2%	44.1%	44.5%	41.3%	37.2%	32.6%	28.6%	24.9%	21.6%	28.0%
2/3	704	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173	218
		16.9%	14.3%	27.0%	46.0%	48.9%	48.6%	45.6%	41.6%	37.6%	32.7%	28.3%	24.6%	31.0%
3/4	702	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172	218
		19.7%	16.8%	30.5%	47.0%	50.0%	49.8%	46.5%	42.6%	38.5%	33.9%	29.1%	24.5%	31.0%
4/5	691	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153	197
		20.5%	17.7%	28.8%	45.3%	47.7%	47.5%	44.3%	40.5%	36.3%	31.7%	26.9%	22.1%	28.4%
5/6	705	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115	153
		17.4%	14.8%	28.2%	41.0%	43.0%	42.3%	38.9%	34.6%	30.4%	25.5%	20.6%	16.3%	21.7%
6/7	※ 674	82	65	150										
		12.2%	9.6%	22.3%										

※22/23年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

※需要実績欄の6/7年は見直し値である。

産地別民間在庫の状況（令和6年9月）

（単位：千玄米トン）

	5年 8月 ① (千玄米トン)	5年 9月 ② (千玄米トン)	6年 8月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	6年 9月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
北海道	91.0	180.6	49.2	▲ 41.8	▲ 46.0%	171.6	▲ 9.0	▲ 5.0%
青森	46.6	101.2	23.5	▲ 23.1	▲ 49.5%	68.0	▲ 33.2	▲ 32.8%
岩手	46.2	52.4	29.2	▲ 17.0	▲ 36.7%	38.2	▲ 14.2	▲ 27.1%
宮城	69.7	116.5	37.9	▲ 31.7	▲ 45.5%	67.0	▲ 49.5	▲ 42.5%
秋田	48.8	113.4	21.8	▲ 27.0	▲ 55.4%	104.0	▲ 9.5	▲ 8.3%
山形	61.0	102.7	39.3	▲ 21.8	▲ 35.7%	73.3	▲ 29.4	▲ 28.6%
福島	55.9	69.4	40.9	▲ 15.0	▲ 26.9%	53.9	▲ 15.6	▲ 22.4%
茨城	54.9	125.7	36.7	▲ 18.2	▲ 33.2%	100.2	▲ 25.5	▲ 20.3%
栃木	58.2	122.5	36.8	▲ 21.3	▲ 36.7%	90.7	▲ 31.8	▲ 26.0%
群馬	9.0	6.7	4.6	▲ 4.4	▲ 48.9%	3.0	▲ 3.8	▲ 55.9%
埼玉	13.2	20.7	5.3	▲ 7.9	▲ 60.1%	9.1	▲ 11.6	▲ 55.9%
千葉	51.7	83.1	52.5	+ 0.8	+ 1.6%	72.3	▲ 10.8	▲ 13.0%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	0.5	0.8	0.4	▲ 0.1	▲ 13.2%	0.5	▲ 0.3	▲ 39.0%
山梨	1.6	2.8	1.5	▲ 0.1	▲ 5.2%	2.4	▲ 0.4	▲ 13.6%
長野	27.0	38.1	18.2	▲ 8.8	▲ 32.6%	29.5	▲ 8.6	▲ 22.6%
静岡	6.3	16.7	5.0	▲ 1.3	▲ 20.9%	13.8	▲ 2.9	▲ 17.2%
新潟	65.0	238.9	42.4	▲ 22.5	▲ 34.7%	165.9	▲ 73.1	▲ 30.6%
富山	28.6	76.8	17.1	▲ 11.4	▲ 40.1%	59.7	▲ 17.1	▲ 22.2%
石川	25.3	69.6	19.7	▲ 5.7	▲ 22.4%	58.4	▲ 11.2	▲ 16.1%
福井	20.4	45.2	13.2	▲ 7.2	▲ 35.3%	48.7	+ 3.5	+ 7.7%
岐阜	15.4	15.9	6.9	▲ 8.5	▲ 55.1%	7.5	▲ 8.4	▲ 52.8%
愛知	11.3	18.0	8.3	▲ 3.0	▲ 26.9%	11.2	▲ 6.8	▲ 37.8%
三重	15.8	38.6	11.9	▲ 3.9	▲ 24.9%	25.6	▲ 13.0	▲ 33.6%

	5年 8月 ① (千玄米トン)	5年 9月 ② (千玄米トン)	6年 8月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	6年 9月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
滋賀	16.8	53.9	9.0	▲ 7.8	▲ 46.6%	37.2	▲ 16.8	▲ 31.1%
京都	2.4	8.2	1.1	▲ 1.3	▲ 54.3%	6.2	▲ 2.0	▲ 24.7%
大阪	0.6	0.7	0.2	▲ 0.5	▲ 75.9%	0.2	▲ 0.5	▲ 70.4%
兵庫	14.2	26.1	11.9	▲ 2.4	▲ 16.6%	18.6	▲ 7.5	▲ 28.6%
奈良	4.7	4.7	1.8	▲ 3.0	▲ 63.1%	1.8	▲ 2.9	▲ 62.1%
和歌山	1.1	1.4	0.3	▲ 0.7	▲ 68.9%	0.4	▲ 1.0	▲ 69.1%
鳥取	6.7	11.5	3.9	▲ 2.9	▲ 42.7%	8.6	▲ 2.9	▲ 25.3%
島根	9.1	18.3	3.9	▲ 5.2	▲ 57.2%	13.4	▲ 4.9	▲ 26.9%
岡山	13.1	15.1	9.5	▲ 3.6	▲ 27.6%	11.2	▲ 3.9	▲ 25.7%
広島	10.2	26.8	5.1	▲ 5.1	▲ 49.7%	19.1	▲ 7.7	▲ 28.6%
山口	14.5	22.7	5.6	▲ 8.9	▲ 61.2%	12.6	▲ 10.1	▲ 44.3%
徳島	7.8	11.8	5.1	▲ 2.7	▲ 34.8%	7.5	▲ 4.3	▲ 36.3%
香川	4.1	5.3	1.6	▲ 2.6	▲ 62.3%	2.5	▲ 2.8	▲ 53.5%
愛媛	7.4	9.7	3.3	▲ 4.1	▲ 55.8%	4.3	▲ 5.4	▲ 55.4%
高知	9.6	8.6	6.8	▲ 2.7	▲ 28.7%	5.6	▲ 3.0	▲ 34.5%
福岡	17.2	27.7	9.2	▲ 8.0	▲ 46.3%	15.8	▲ 11.9	▲ 43.1%
佐賀	12.2	11.7	6.7	▲ 5.5	▲ 44.9%	6.8	▲ 4.9	▲ 42.1%
長崎	3.0	2.7	1.9	▲ 1.1	▲ 36.1%	1.9	▲ 0.8	▲ 30.2%
熊本	12.5	12.3	7.3	▲ 5.2	▲ 41.7%	7.7	▲ 4.6	▲ 37.5%
大分	6.0	5.7	3.0	▲ 3.0	▲ 49.5%	3.6	▲ 2.1	▲ 36.9%
宮崎	7.4	4.1	3.9	▲ 3.5	▲ 47.6%	2.3	▲ 1.8	▲ 44.9%
鹿児島	12.0	9.4	4.0	▲ 8.0	▲ 66.9%	2.6	▲ 6.8	▲ 72.7%
沖縄	0.4	0.3	0.2	▲ 0.2	▲ 44.0%	0.2	▲ 0.1	▲ 49.2%
全国	104万ト	199万ト	65万ト	▲ 39万ト	▲ 37.7%	150万ト	▲ 49万ト	▲ 24.7%

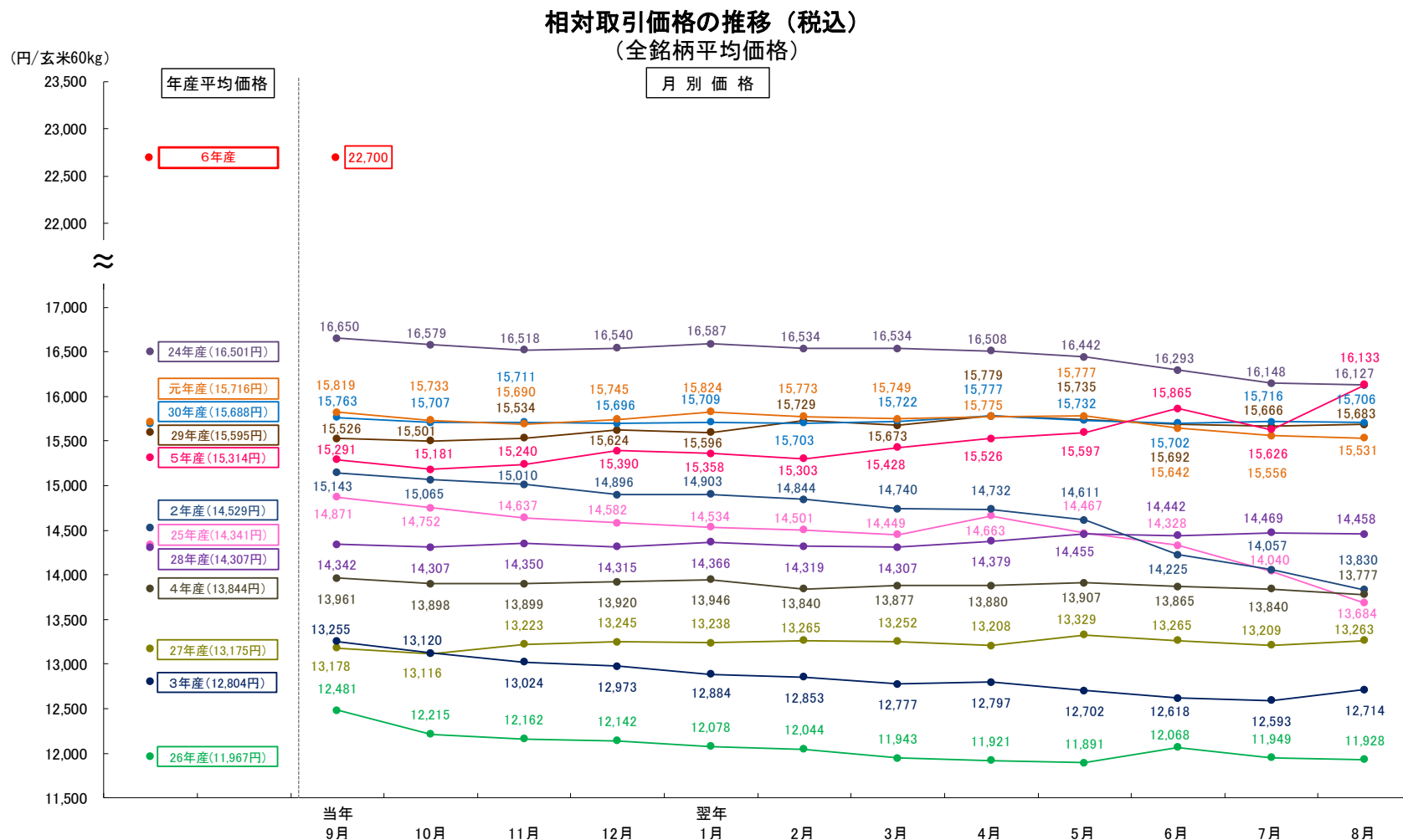
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

相対取引価格の推移（平成24年産～令和6年産）

- 令和6年産米の令和6年9月の相対取引価格は、全銘柄平均で22,700円/60kgとなり、前年同月比+7,409円（+48%）、前月比+6,567円（+41%）、取扱数量は、前年同月比+96%となったところ。
- 令和6年9月の相対取引価格のように、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格として22,000円/60kgを超えたのは、平成3～6年産、平成15年産以来である。



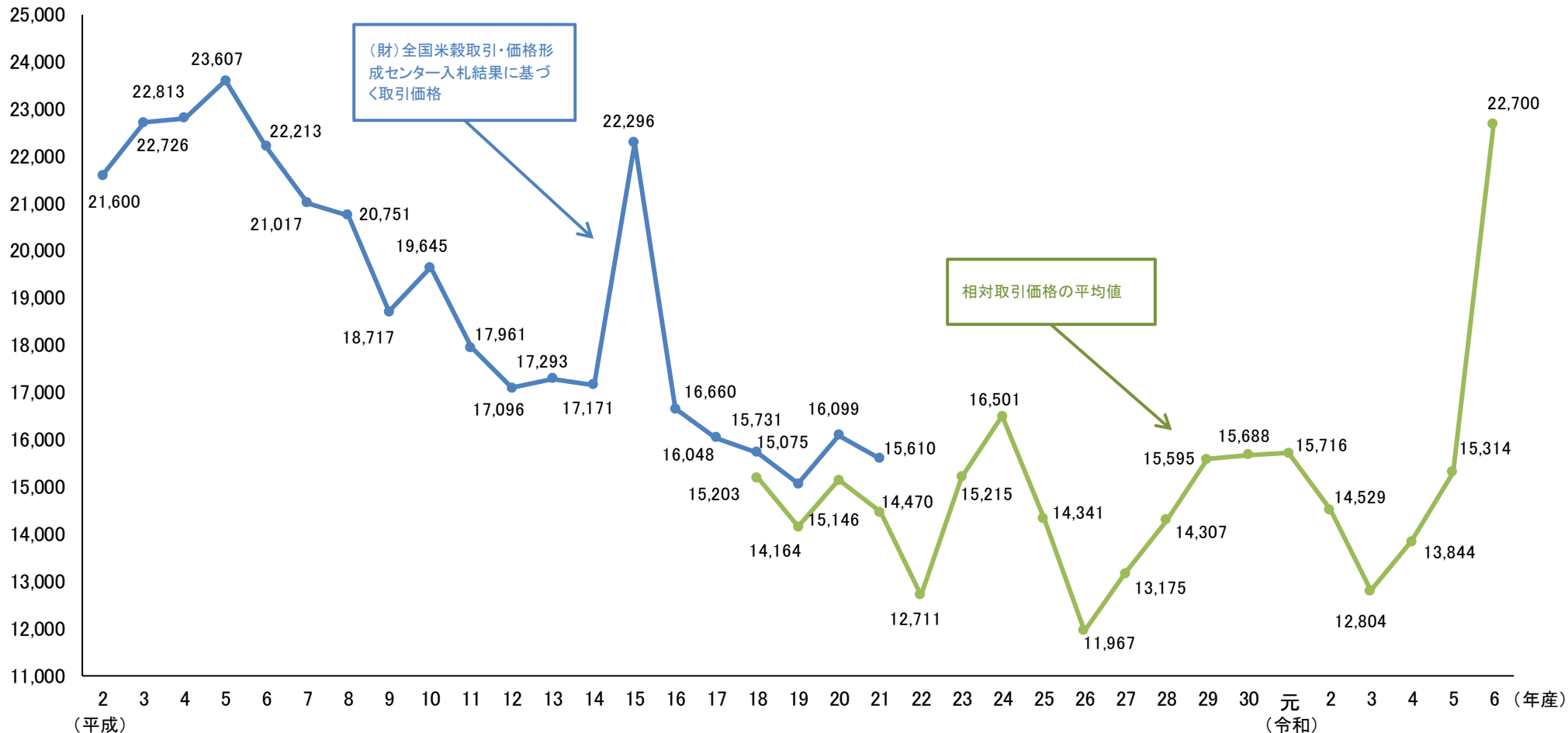
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（5年産は出回りから令和6年9月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

長期的な主食用米の価格の動向

(単位: 円/60kg)



資料: (財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1: 価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

注2: 年産別平均価格 (令和5年産は、出回りから令和6年9月までの速報値、令和6年産は、令和6年9月の速報値)。

- ※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
- ・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

令和6年産米の相対取引価格（令和6年9月の年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

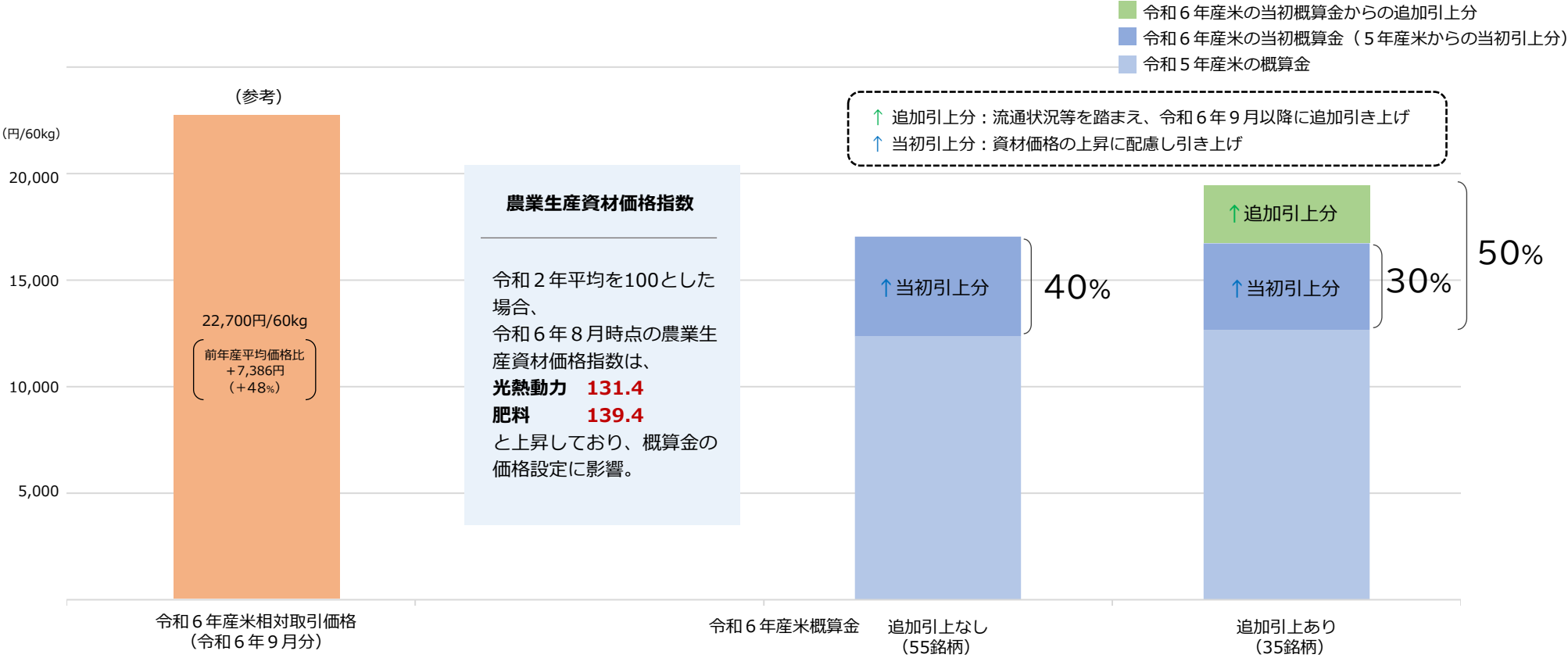
産地品種銘柄		令和6年産 〔6年9月〕 ①	令和5年産 〔出回り～ 6年9月〕 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	25,198	15,647	+ 9,551
北海道	ゆめぴりか	25,971	16,448	+ 9,523
北海道	きらら397	24,068	15,087	+ 8,981
青森	まっしぐら	25,311	15,267	+ 10,044
青森	つがるロマン	-	15,479	-
岩手	ひとめぼれ	20,775	15,129	+ 5,646
岩手	銀河のしずく	20,894	15,452	+ 5,442
岩手	あきたこまち	-	15,107	-
宮城	ひとめぼれ	22,968	14,915	+ 8,053
宮城	つや姫	23,646	15,645	+ 8,001
宮城	ササニシキ	23,389	15,570	+ 7,819
秋田	あきたこまち	22,284	15,347	+ 6,937
秋田	ひとめぼれ	20,181	14,375	+ 5,806
秋田	めんこいな	-	14,181	-
山形	はえぬき	21,741	14,779	+ 6,962
山形	つや姫	23,096	18,739	+ 4,357
山形	雪若丸	22,428	15,496	+ 6,932
福島	コシヒカリ（中通り）	24,148	14,953	+ 9,195
福島	コシヒカリ（会津）	-	15,404	-
福島	コシヒカリ（浜通り）	-	15,183	-
福島	ひとめぼれ	23,896	14,583	+ 9,313
福島	天のつづ	-	14,309	-
茨城	コシヒカリ	27,646	15,234	+ 12,412
茨城	あきたこまち	26,992	14,719	+ 12,273
茨城	にじのきらめき	-	-	-
栃木	コシヒカリ	23,492	15,144	+ 8,348
栃木	とちぎの星	23,009	14,495	+ 8,514
栃木	あさひの夢	22,908	14,164	+ 8,744
群馬	あさひの夢	-	15,250	-
群馬	ゆめまつり	-	15,112	-
埼玉	彩のきずな	-	14,430	-
埼玉	彩のかがやき	-	14,250	-
埼玉	コシヒカリ	-	15,013	-
千葉	コシヒカリ	24,556	14,549	+ 10,007
千葉	ふさこがね	23,697	13,703	+ 9,994
千葉	ふさおとめ	23,211	13,950	+ 9,261
山梨	コシヒカリ	19,871	17,535	+ 2,336
長野	コシヒカリ	20,615	15,890	+ 4,725
長野	あきたこまち	19,760	15,127	+ 4,633
静岡	コシヒカリ	21,789	15,560	+ 6,229

産地品種銘柄		令和6年産 〔6年9月〕 ①	令和5年産 〔出回り～ 6年9月〕 ②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	-	14,438	-
静岡	にこまる	-	14,407	-
新潟	コシヒカリ（一般）	20,858	16,954	+ 3,904
新潟	コシヒカリ（魚沼）	24,263	20,750	+ 3,513
新潟	コシヒカリ（佐渡）	21,316	17,437	+ 3,879
新潟	コシヒカリ（岩船）	21,134	17,240	+ 3,894
新潟	こしいぶき	19,075	14,605	+ 4,470
富山	コシヒカリ	20,444	15,877	+ 4,567
富山	てんたかく	20,183	14,928	+ 5,255
石川	コシヒカリ	21,621	15,676	+ 5,945
石川	ゆめみづほ	20,164	14,438	+ 5,726
福井	コシヒカリ	20,395	15,381	+ 5,014
福井	ハチエチゼン	19,343	13,881	+ 5,462
福井	あきさかり	19,322	14,185	+ 5,137
岐阜	ハツシモ	-	14,992	-
岐阜	コシヒカリ	21,100	16,139	+ 4,961
岐阜	ほしじるし	-	13,922	-
愛知	あいちのかおり	-	14,477	-
愛知	コシヒカリ	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-
三重	コシヒカリ（一般）	21,736	14,729	+ 7,007
三重	コシヒカリ（伊賀）	22,010	15,085	+ 6,925
三重	キヌヒカリ	20,732	13,563	+ 7,169
滋賀	コシヒカリ	20,856	15,272	+ 5,584
滋賀	キヌヒカリ	19,930	13,965	+ 5,965
滋賀	みずかがみ	20,912	14,918	+ 5,994
京都	コシヒカリ	22,101	15,489	+ 6,612
京都	キヌヒカリ	19,408	14,174	+ 5,234
京都	ヒノヒカリ	-	16,311	-
兵庫	コシヒカリ	20,629	16,155	+ 4,474
兵庫	ヒノヒカリ	-	14,001	-
兵庫	キヌヒカリ	19,311	13,956	+ 5,355
奈良	ヒノヒカリ	-	14,394	-
鳥取	きぬむすめ	20,156	14,392	+ 5,764
鳥取	コシヒカリ	20,548	14,990	+ 5,558
鳥取	ひとめぼれ	20,011	14,239	+ 5,772
島根	きぬむすめ	19,416	14,117	+ 5,299
島根	コシヒカリ	20,366	14,978	+ 5,388
島根	つや姫	20,193	14,743	+ 5,450
岡山	アケボノ	-	13,174	-

産地品種銘柄		令和6年産 〔6年9月〕 ①	令和5年産 〔出回り～ 6年9月〕 ②	価格差 ①－②
岡山	きぬむすめ	21,776	13,729	+ 8,047
岡山	コシヒカリ	22,641	14,492	+ 8,149
広島	コシヒカリ	20,950	14,469	+ 6,481
広島	あきさかり	20,219	13,477	+ 6,742
広島	あきろまん	20,240	13,470	+ 6,770
山口	コシヒカリ	22,371	14,917	+ 7,454
山口	ひとめぼれ	21,371	14,072	+ 7,299
山口	きぬむすめ	-	14,001	-
徳島	コシヒカリ	23,218	14,137	+ 9,081
徳島	あきさかり	22,231	13,426	+ 8,805
香川	コシヒカリ	21,049	15,325	+ 5,724
香川	ヒノヒカリ	-	14,569	-
香川	あきさかり	20,293	14,245	+ 6,048
愛媛	コシヒカリ	20,113	14,306	+ 5,807
愛媛	ヒノヒカリ	-	13,826	-
愛媛	あきたこまち	19,222	13,573	+ 5,649
高知	コシヒカリ	22,339	14,922	+ 7,417
高知	ヒノヒカリ	-	13,634	-
福岡	夢つくし	20,271	15,466	+ 4,805
福岡	ヒノヒカリ	-	14,168	-
福岡	元気つくし	21,278	15,448	+ 5,830
佐賀	さがびより	-	14,924	-
佐賀	夢しずく	-	14,415	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	14,322	-
長崎	にこまる	-	14,584	-
長崎	なつほのか	-	14,209	-
長崎	ヒノヒカリ	-	14,330	-
熊本	ヒノヒカリ	-	14,812	-
熊本	森のくまん	-	14,471	-
熊本	コシヒカリ	23,311	15,237	+ 8,074
大分	ヒノヒカリ	-	14,459	-
大分	なつほのか	-	-	-
大分	ひとめぼれ	-	14,544	-
宮崎	コシヒカリ	-	14,582	-
宮崎	ヒノヒカリ	-	15,221	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	14,763	-
鹿児島	あきほなみ	-	15,119	-
鹿児島	コシヒカリ	21,499	14,670	+ 6,829
全銘柄平均価格		22,700	15,314	+ 7,386

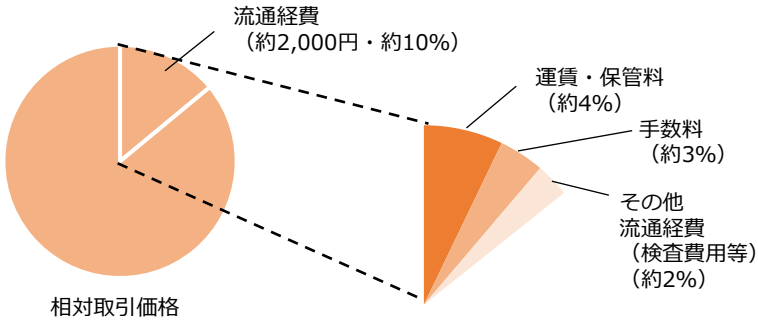
注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和5年産は出回りから6年9月までの速報値、令和6年産は6年9月の速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。
 2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
 3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

6 年産米の概算金の設定と相対取引価格の状況



※概算金は、業界紙情報及び集荷業者等からの聞き取りによるもの（令和 6 年 10 月 23 日現在）。

米の集荷・流通に関する経費

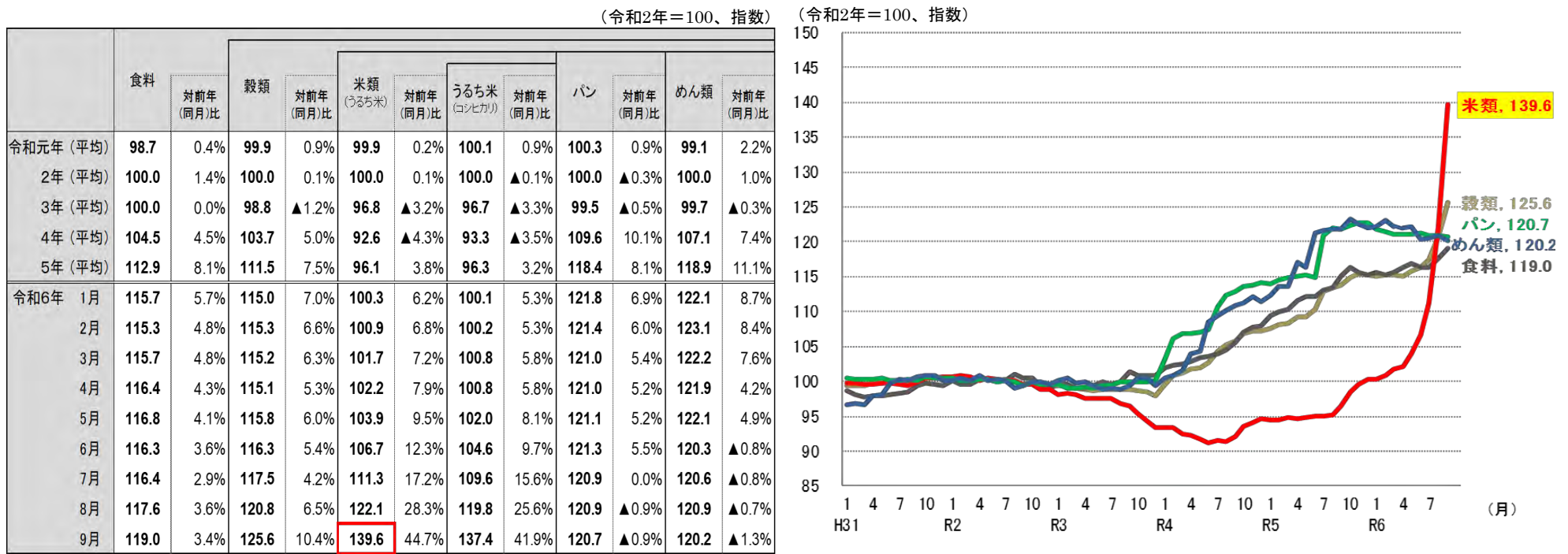


- 集荷団体が行う米の集荷・流通等に要するコストは、各県・銘柄によって異なるものの、概ね約 2,000 円/60kg（約 10%）と推定される。
- 内訳は、通年供給にかかる保管料、産地から消費地への運賃等が 4 %、手数料が 3 %、その他（安全安心にかかるサンプル検査費用、広告宣伝費用他）が 2 %程度と推定される。

※流通経費は、集荷業者等からの聞き取りにより算出。

消費者物価指数の推移

- 令和6年9月の消費者物価指数（総務省、令和2年基準）は、食料全体が119.0、うち米類は139.6、パンは120.7、めん類は120.2。
- 米類については、他のパンやめん類等と比べ緩やかに上昇していたものの、8月以降は大幅に上昇。

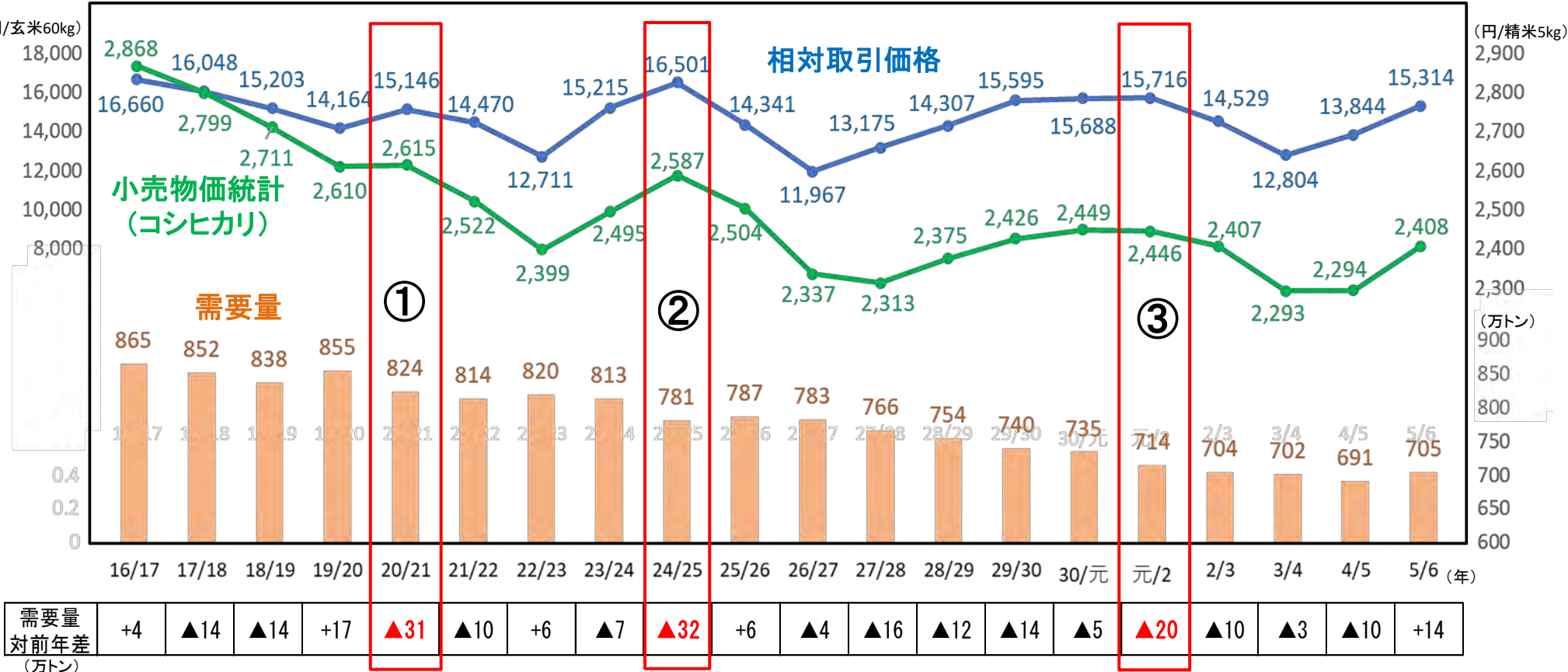


資料：総務省「消費者物価指数」令和2年基準、品目別価格指数（全国）
注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
2：穀類は、米類（うるち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
3：令和元年～5年のデータは年平均、6年は月次データである。

過去における米価と需要の関係について(その1)

○ 過去において、米の相対取引価格や小売価格が上昇したり、他の食料品と比べ相対的に米が割高となったりしている年は、前年より需要実績が大きく減少（なお、令和元/2年については、価格面よりコロナウイルス感染症による社会・経済活動の停滞等が需要量に影響したと考えられる）。

【主食用米の需要量と相対取引価格・小売物価統計の推移】



※1 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(5年産は出回りから令和6年9月までの速報値)の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。
なお、17年産以前は(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果に基づく取引価格である。
※2 小売物価統計(コシヒカリ)は、総務省「小売物価統計」動向編による東京都区部における精米価格(7日以内の特売分を除く)であり、包装代、消費税相当額が含まれている。
※3 需要量は、当年7月から翌年6月までの主食用米等の需要量である。

過去における米価と需要の関係について(その2)

【需要減の背景】

①	＜需要の状況＞ - 平成20/21年の需要実績は824万トンと、前年実績差▲31万トン(▲3.6%)。 ＜米価の状況＞ - 食料の消費者物価指数が前年比+2.5%、うち、パンは前年比+10.1%、麺類は前年比+8.8%に対して、米は前年比+0.7%。 - 平成20年産米の相対取引価格は15,146円/60kgで、前年比+982円、+6.9%。 - 精米小売価格(コシヒカリ)は2,615円/5kgで、前年比+5円、+0.2%。
②	＜需要の状況＞ - 平成24/25年の需要実績は781万トンと、前年実績差▲32万トン(▲4.0%)。 ＜米価の状況＞ - 食料の消費者物価指数が前年比▲1.1%、うち、パンは前年比▲2.7%、麺類は前年比▲1.8%に対して、米は前年比+7.5%。 - 平成24年産米の相対取引価格は16,501円/60kgで、前年比+1,286円、+8.5%。 - 精米小売価格(コシヒカリ)は2,587円/5kgで、前年比+92円、+3.7%。
③	＜需要の状況＞ - 令和元/2年の需要実績は714万トンと、前年実績差▲20万トン(▲2.7%)。 ＜米価の状況＞ - 食料の消費者物価指数が前年比+1.4%、うち、パンは前年比±0.0%、麺類は前年比+3.2%に対して、米は前年比+0.6%。 - 令和元年産米の相対取引価格は15,716円/60kgで、前年比+28円、+0.2%。 - 精米小売価格(コシヒカリ)は2,446円/5kgで、前年比▲4円、▲0.1%。

注1 需要実績は、当年7月から翌年6月までの主食用米等の需要量。(資料:農林水産省「米穀の需給及び価格に関する基本指針」)

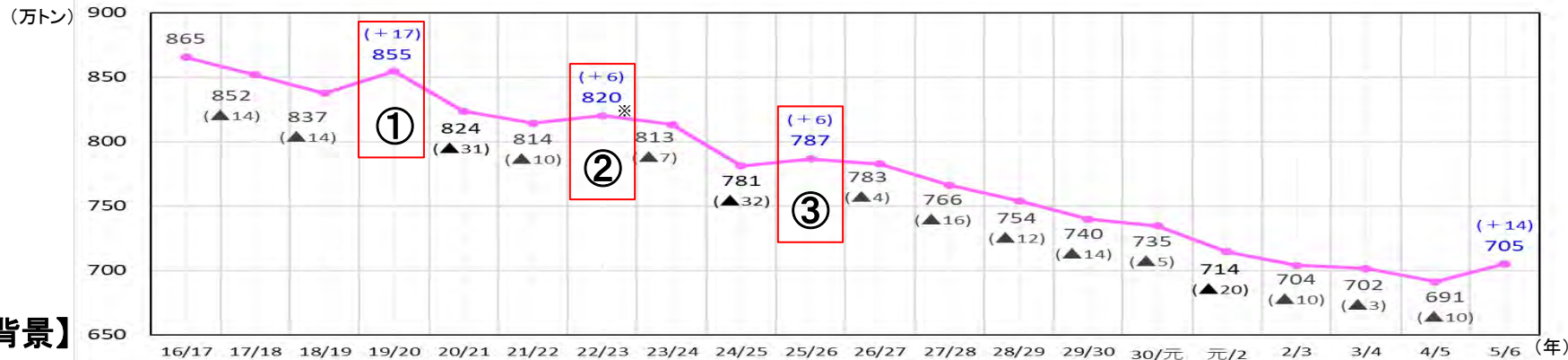
注2 消費者物価指数は、月次データの当年7月から翌年6月までの指数を単純平均により算出。(資料:総務省「消費者物価指数(2020年基準)」)

注3 精米小売価格は、月次データの当年7月から翌年6月までの価格(東京都都区におけるコシヒカリの価格)を単純平均により算出。(資料:総務省「小売物価統計 動向編」)

(参考)需要増加時の背景

- 過去の需要実績増加の背景は、食料全体に比べ米の値ごろ感があったこと、人口が増加したこと、1等米比率が低下し精米歩留まりが低下したことがあげられる。
- 一方で、米価が高水準になることで、需要が前年より大きく減少するような年産もある。

【主食用米の需要実績の推移】



【需要増の背景】

- ①

ア 米の値ごろ感

 - ・ 食料の消費者物価指数が前年比+1.1%、うち、パンは前年比+5.5%、麺類は前年比+4.8%に対して、米は前年比▲2.1%。
(19年産米の相対取引価格は14,164円/60kg(前年比▲1,039円、▲6.8%)、精米小売価格(コシヒカリ)は2,610円/5kg(前年比▲101円、▲3.7%。))

イ 人口の微増

 - ・ 前年から0.1%増加(約9千トン相当)。
- ②

ア 米の値ごろ感

 - ・ 食料の消費者物価指数が前年比▲0.1%、うち、パンは前年比▲1.8%、麺類は前年比▲1.4%に対して、米は前年比▲6.1%。
(22年産米の相対取引価格は12,711円/60kg(前年比▲1,759円、▲12.2%)、精米小売価格(コシヒカリ)が2,399円/5kg(前年比▲123円、▲4.9%。))

イ 1等米比率の低下による精米歩留まりの減少

 - ・ 22年産米は、梅雨明け後9月上旬まで全国的に記録的な高温で推移し、一部地域で白未熟粒等が多発するなどして、1等米比率が63.6%(規格外を除く)と平年より大幅に減少し、精米歩留まりが低下。
(※平成22/23年の需要実績820万トンは、精米歩留まりの減少率▲1.5%分の10万トンが控除されており、その分を加えると前年差+16万トン。)
- ③

ア 米の値ごろ感

 - ・ 食料の消費者物価指数が前年比+2.4%、うち、パンは前年比+1.4%、麺類は前年比+0.4%に対して、米は前年比▲3.9%。
(25年産米の相対取引価格は14,341円/60kg(前年比▲2,160円、▲13.1%)、精米小売価格(コシヒカリ)は2,504円/5kg(前年比▲84円、▲3.2%。))

注1 需要実績は、当年7月から翌年6月までの需要量。(資料：農林水産省「米穀の需給及び価格に関する基本指針」)
注2 消費者物価指数は、月次データの当年7月から翌年6月までの指数を単純平均により算出。(資料：総務省「消費者物価指数(2020年基準)」)
注3 精米小売価格は、月次データの当年7月から翌年6月までの価格(東京都都区部におけるコシヒカリの価格)を単純平均により算出。(資料：総務省「小売物価統計 動向編」)
注4 人口については、10月1日現在の値。(資料：総務省「人口統計」)

米の販売数量の推移

- 米穀販売事業者における令和6年1月以降の販売数量は、小売事業者向け、中食・外食事業者等向けともに概ね前年を上回って推移していたが、直近9月の販売数量は、小売事業者向け、中食・外食事業者等向けともに前年を下回る数量となっている。
- 1世帯1人当たりの購入数量は、5・6月は前年同期を1割程度上回って推移し、7月は前年と同程度、8月は3割程度の増加となっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)(速報)】

	5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	102%	106%	108%	107%	108%	106%	114%	104%	100%	86%			
(※令和元年との比較)	(103%)	(110%)	(111%)	(108%)	(109%)	(114%)	(116%)	(104%)	(107%)	(87%)			
中食・外食事業者等向け	105%	103%	106%	100%	99%	103%	98%	99%	100%	97%			
(※令和元年との比較)	(97%)	(96%)	(100%)	(95%)	(94%)	(102%)	(97%)	(97%)	(97%)	(98%)			
販売数量計	103%	105%	107%	104%	104%	105%	107%	102%	100%	91%			
(※令和元年との比較)	(101%)	(103%)	(106%)	(102%)	(102%)	(108%)	(107%)	(100%)	(102%)	(92%)			

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの販売事業者(年間取扱数量約150万トン(令和5年産主食用米等の生産量661万トンの約2割))である。
2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

		5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米	1世帯当たり 購入数量	56.64	3.52	3.92	4.49	4.38	4.87	4.64	4.37	5.73				
	前年同月比	98.8%	94.6%	96.6%	105.6%	97.1%	109.4%	109.7%	99.5%	129.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1世帯1人当たり 購入数量	19.56	1.22	1.36	1.55	1.52	1.69	1.61	1.52	1.99	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	前年同月比	99.3%	95.0%	96.9%	106.0%	97.8%	110.2%	110.5%	100.2%	129.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
パン	1世帯当たり 前年同月比	97.9%	103.9%	101.2%	104.0%	101.4%	99.7%	96.9%	102.3%	103.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1世帯1人当たり 前年同月比	98.4%	104.3%	101.5%	104.3%	102.1%	100.4%	97.6%	103.0%	104.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	1世帯当たり 前年同月比	93.7%	99.2%	100.0%	99.6%	94.1%	97.7%	103.7%	93.4%	104.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
麺類	1世帯1人当たり 前年同月比	94.2%	99.6%	100.4%	99.9%	94.7%	98.4%	104.4%	94.0%	105.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	世帯人員	2.90人	2.89人	2.89人	2.89人	2.88人	2.88人	2.88人	2.88人	2.88人				

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯
注：1世帯1人当たりの値については、1世帯当たりの値を世帯人員で除して算出。

精米歩留まりの状況について(事業者の精米実績)

- 令和5年産の精米歩留まりについては、回答のあった大手卸売業者（14社）及び米穀店（7社）では、事業者ごとに▲0.2%～▲4.2%とばらつきがあるが、21社の精米歩留まりを単純平均すると88.5%と、令和2～4年産の平均と比較すると▲1.7%減少。
- 令和6年産の9月末時点での精米歩留まりは89.0%と、令和2～4年産の平均と比較すると▲1.2%減少し、令和5年産と比較すると+0.5%増加している。なお、令和6年産は、出回りから概ね1～2か月の実績であり、今後、出回りが進めば状況は変動する。

<精米歩留まり(調査結果)>

(単位：%)

過去の精米歩留まり				昨年の精米歩留まり		今年の精米歩留まり		
2年産	3年産	4年産	2～4年産平均	5年産	過去平均との比較	6年産	過去平均との比較	昨年との比較
			①	②	②－①	③	③－①	③－②
90.0	90.3	90.2	90.2	88.5	▲ 1.7	89.0	▲ 1.2	0.5

注:いずれの年産も令和6年9月末時点の精米歩留まりであることから、令和6年産については出回りからおおむね1～2か月分の実績となる。

(参考) 令和5年産の農産物検査等級の低下等による精米歩留まりの減少について

- 農産物検査の等級比率を基に試算した精米歩留まりの過去10年（平成25年～令和4年）平均値は91.4%。
- 令和5年は、高温・渇水の影響により1等比率が前年より約18%減少。これにより、等級比率を基に試算した精米歩留まりは90.6%と過去10年の平均との比較で▲0.8%減少。
- 一方、5年産の精米歩留まりの減少については、大手卸売業者（6社）からの聞き取りでは、産地・銘柄や工場ごとで+1.8%～▲3.0%とばらつきがあるが、6社の主要銘柄別の精米歩留まりを単純平均すると▲1.4%の減少。

<精米歩留まりの推移(試算)>

年産	水稻うち玄米検査等級比率 (規格外を除く)			主食用米生産量④ (玄米千トン)				精米流通量⑧=(⑨+⑩+⑪) (精米千トン)				歩留り 減少率 ⑧/④
	1等 ①	2等 ②	3等 ③	合計	1等 ⑤ (④×①)	2等 ⑥ (④×②)	3等 ⑦ (④×③)	合計	1等 ⑨ (⑤×92%)	2等 ⑩ (⑥×89%)	3等 ⑪ (⑦×85%)	
平成25	80.4%	17.7%	1.9%	8,182	6,579	1,449	154	7,473	6,052	1,290	131	91.3%
26	83.0%	15.6%	1.4%	7,882	6,545	1,229	107	7,207	6,022	1,094	91	91.4%
27	83.9%	14.4%	1.7%	7,442	6,244	1,069	128	6,806	5,745	952	109	91.4%
28	84.8%	13.8%	1.4%	7,496	6,357	1,034	104	6,858	5,849	921	89	91.5%
29	83.9%	14.5%	1.6%	7,306	6,131	1,059	116	6,682	5,640	942	99	91.5%
30	82.1%	16.1%	1.8%	7,327	6,014	1,178	136	6,696	5,533	1,048	115	91.4%
令和元	74.7%	22.2%	3.0%	7,261	5,427	1,614	220	6,616	4,993	1,436	187	91.1%
2	81.2%	16.8%	2.0%	7,226	5,866	1,216	145	6,601	5,396	1,082	123	91.4%
3	84.5%	14.1%	1.4%	7,007	5,923	986	97	6,410	5,449	878	83	91.5%
4	80.1%	17.9%	2.1%	6,701	5,366	1,197	138	6,119	4,937	1,065	118	91.3%
5	61.8%	31.0%	7.2%	6,610	4,088	2,048	474	5,987	3,761	1,823	403	90.6%

過去10年平均

91.4%

▲0.8%

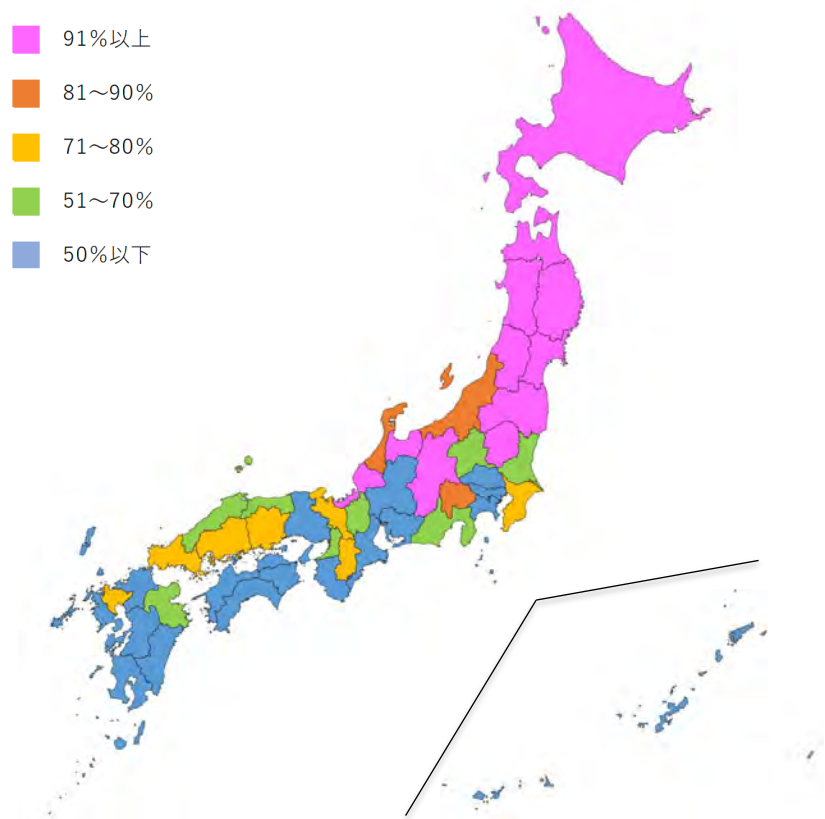
平均値との差

注1 令和5年産の農産物検査結果は3月31日現在(速報値)の数値。
注2 等級ごとの精米歩留まりは、「農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会資料(農産物規格・検査の情勢(令和2年9月))」の精米歩留まり(1等92%、2等89%、3等85%)を使用して試算。
注3 令和5年産の精米歩留まりについては、大手卸売業者(6社)の令和5年12月末までの聞き取りによるもの。

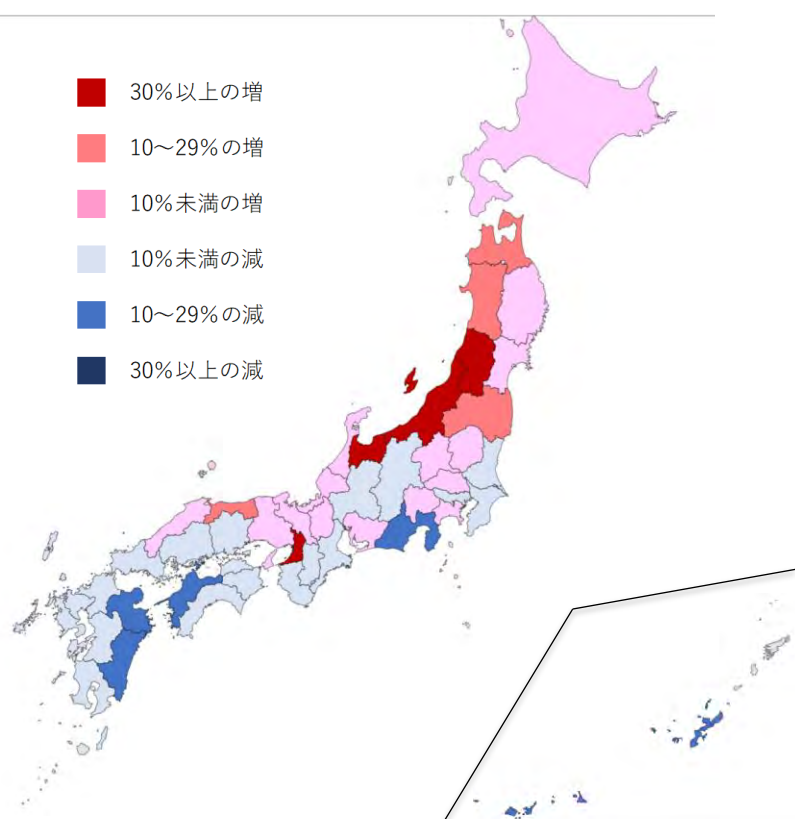
令和6年産水稻うるち玄米の1等比率及び前年産比較（9月30日現在）

- 令和6年産水稻うるち玄米の9月30日現在の検査数量は、過去5年（令和元～5年産）平均175.3万トンよりも多い181.9万トンとなっている。
- 水稻うるち玄米の9月30日現在の1等比率は、過去5年平均73.2%とほぼ同じ77.3%となっている。
- 登熟期の高温による影響により9月末の1等比率が例年よりも低い状況にあった令和5年産に比べ、新潟県84.0%（対前年同期：+70.5%）、山形県95.0%（対前年同期：+40.3%）など23県において、1等比率が増加している。

1等比率(6年産・9月末時点)



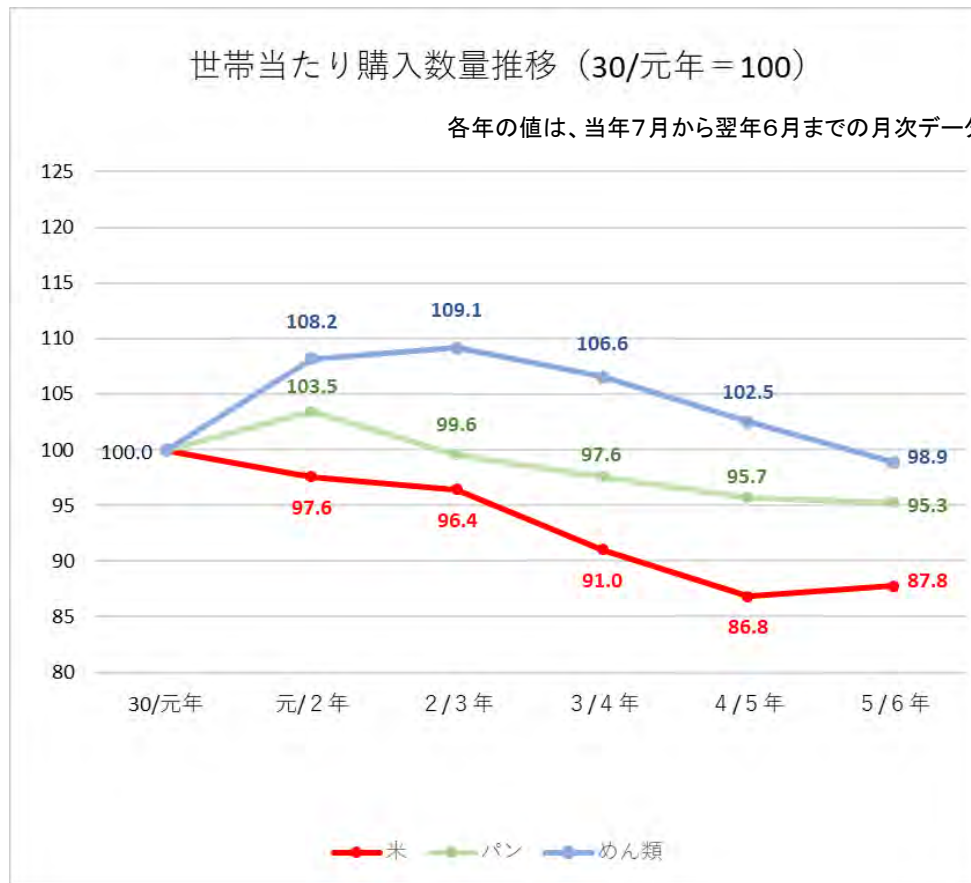
1等比率 5年産との比較(9月末時点)



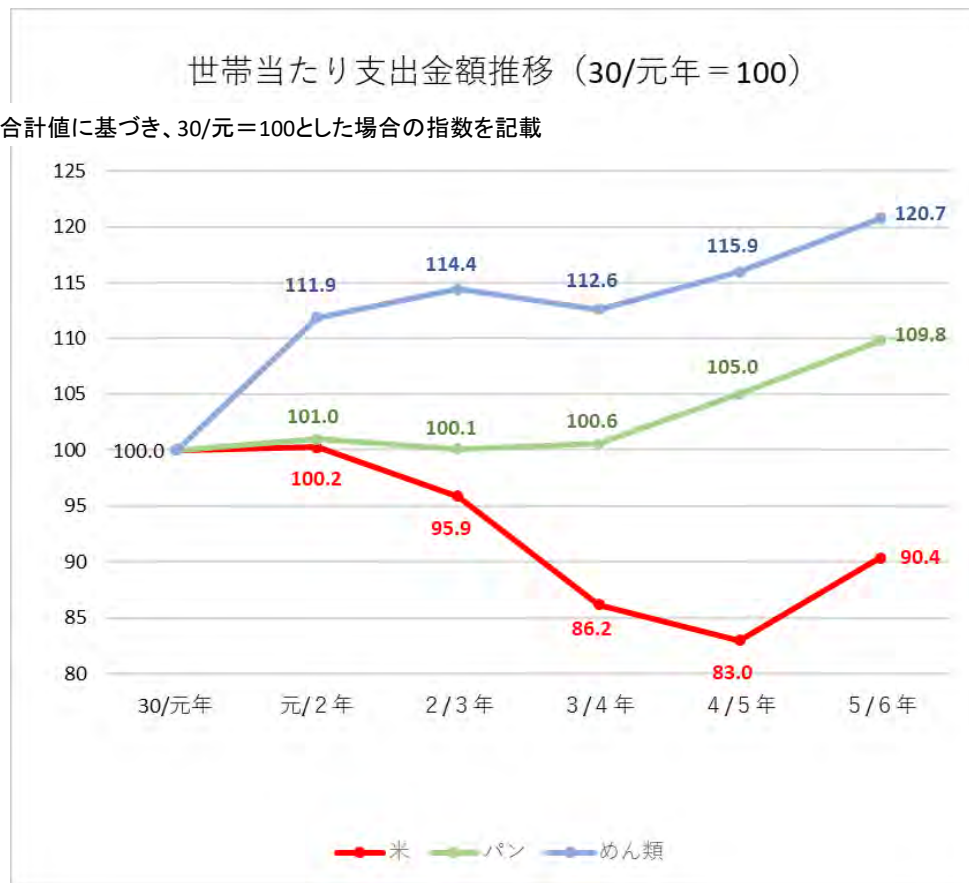
消費動向(①家計調査の購入数量、支出金額のトレンド)

- 米の消費動向を家計調査で見ると、令和4/5年までは購入数量、支出金額ともに減少傾向で推移。令和5/6年は上昇に転じ、購入数量は平成30/令和元年を100とした場合の指数で87.8（前年比+1.2%）、支出金額は90.4（前年比+8.9%）となっている。
- また、他の食品（パン、めん類）と比べると、米の購入数量は低い水準で推移。支出金額については、パンやめん類が上昇傾向で推移してきたのに対し、米は令和4/5年まで減少傾向で推移し、令和5/6年では上昇に転じている。

(1) 1世帯当たりの購入数量の推移(総務省 家計調査)



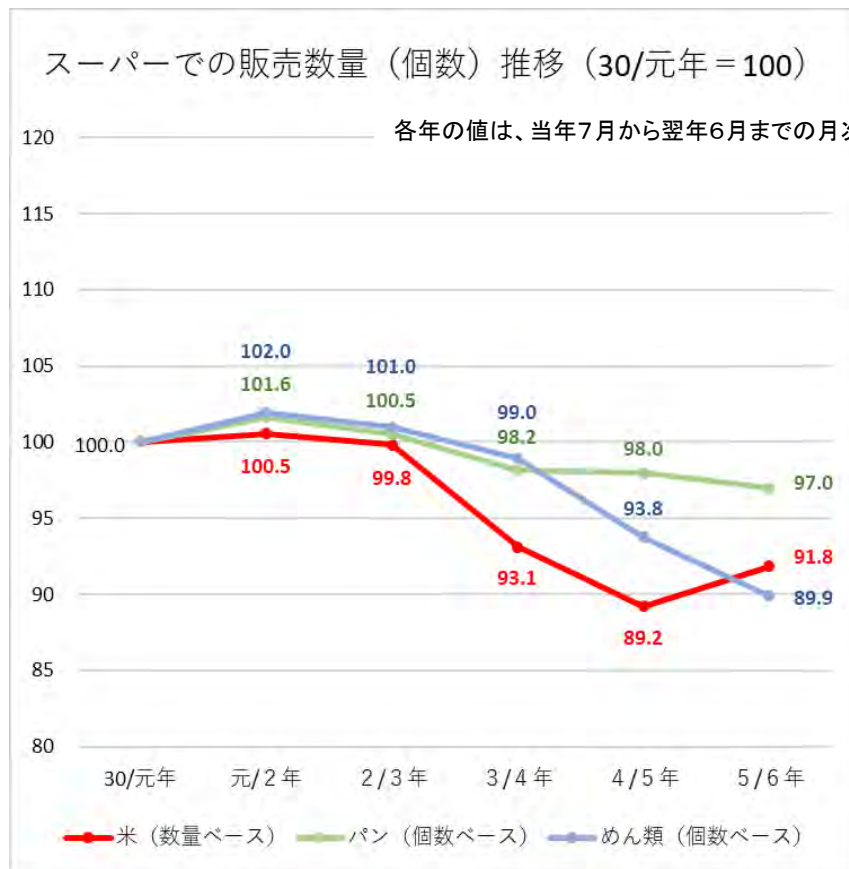
(2) 1世帯当たりの支出金額の推移(総務省 家計調査)



消費動向(②POSの販売数量、販売金額のトレンド)

- 消費の動向をPOSデータで見ると、スーパーでの販売数量（個数）は、令和元/2年以降、米、パン、めん類のいずれも減少傾向で推移し、米のみ、令和5/6年は前年比+2.9%の増加に転じている。
- また、販売金額は、パン、めん類は増加傾向で推移しているのに対し、米は令和4/5年まで減少傾向で推移し、令和5/6年は増加に転じている。

(1)スーパーでの販売数量(個数)の推移(POSデータ 全国)



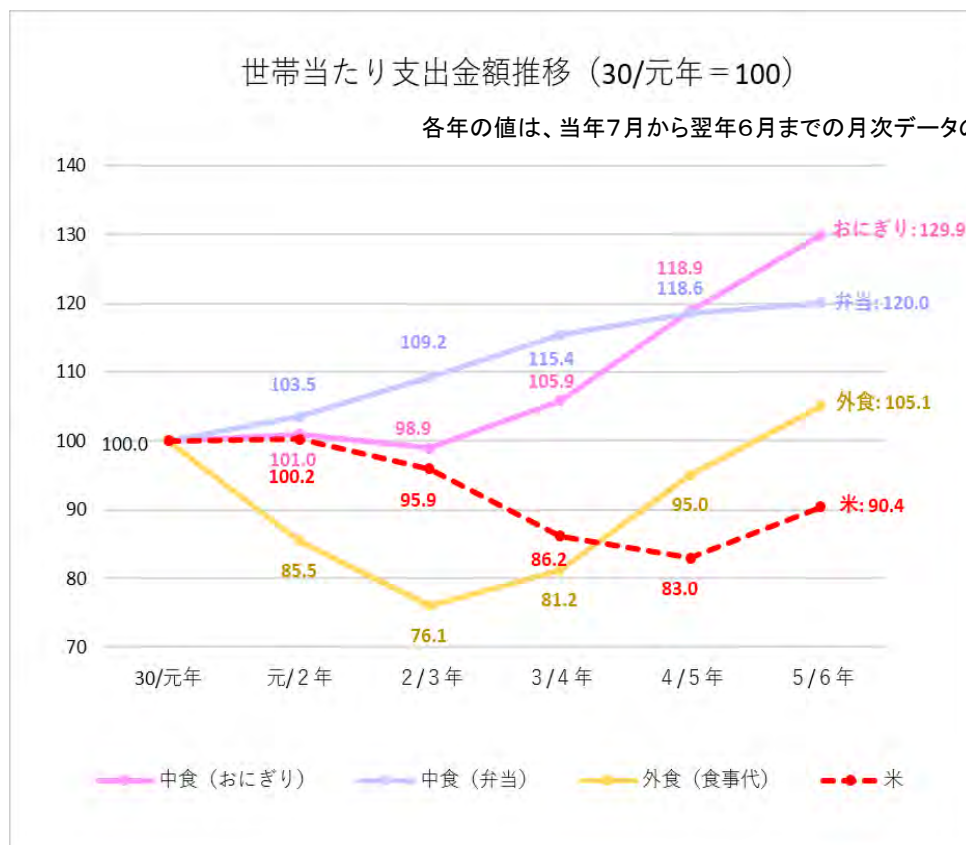
(2)スーパーでの販売金額の推移(POSデータ 全国)



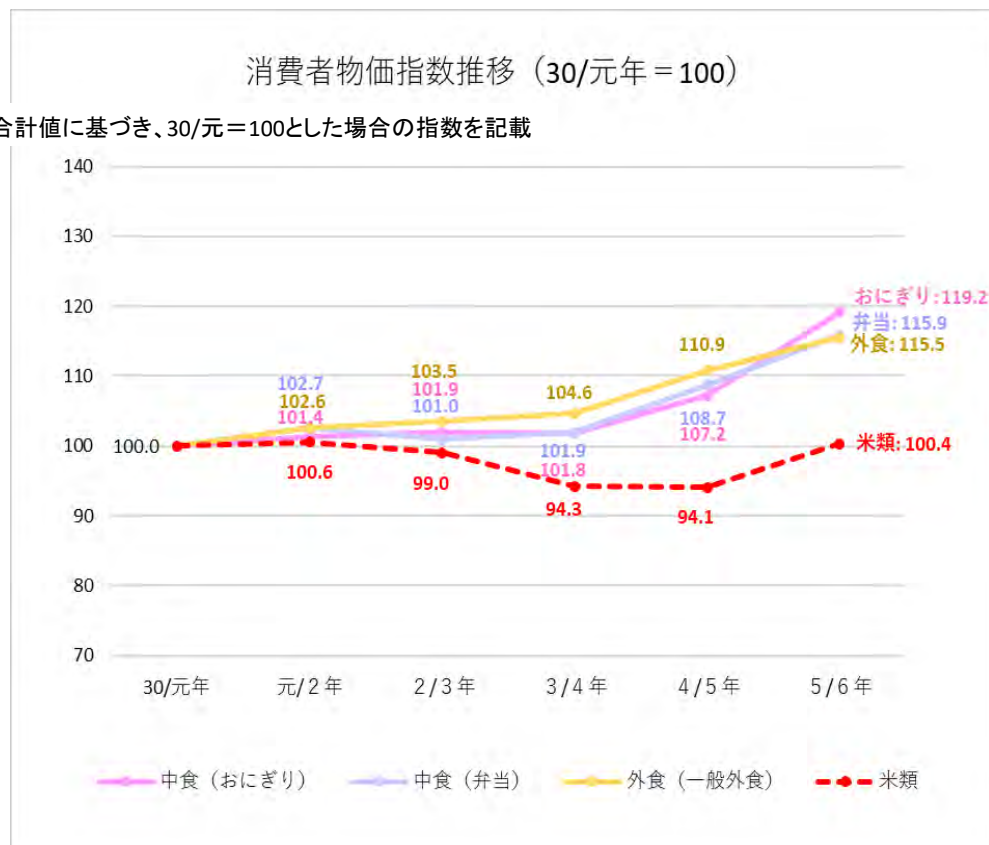
消費動向(③中食・外食への支出金額のトレンド)

- 中食・外食への支出金額を家計調査で見ると、平成30/令和元年を100とした場合の指数で、令和5/6年のおにぎりへの支出金額は129.9（前年比+9.3%）。弁当への支出金額は120.0（前年比+1.2%）。外食への支出金額は105.1（前年比+10.6%）となっている。
- 一方で、支出金額の増減要素となる物価の変動を消費者物価指数で見た場合、令和5/6年の中食・外食の物価は、平成30/令和元年を100とした場合の指数で15～20ポイント程度の上昇となっている。

(1) 1世帯当たりの支出金額の推移(総務省 家計調査)



(2) 消費者物価の推移(総務省 消費者物価指数)



訪日外国人数の推移及びインバウンドによる米の需要増に係る試算

- 令和5年7月～令和6年6月の訪日外国人数は対前年比2.3倍と急激に回復。
- 訪日外国人が1日2食お米を食べると仮定すると、訪日外国人数、平均泊数の増加（人数は2.3倍、泊数は+1.3泊）により、米の需要量は3.1万トン増加したと推定される。
- なお、日本人国内旅行者数もR5/R6年（7月～6月）は対前年度比107%と人流が大きく増加。

【インバウンド（訪日外客）数の推移（日本政府観光局 訪日外客統計）】

（単位：万人）

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
インバウンド数	R4/R5年	14	17	21	50	93	137	150	148	182	195	190	207	1,404
	R5/R6年	232	216	218	252	244	273	269	279	308	304	304	314	3,213
	対前年比	(1657%)	(1271%)	(1038%)	(504%)	(262%)	(199%)	(179%)	(189%)	(169%)	(156%)	(160%)	(152%)	(229%)

※令和4年10月11日から水際対策が大幅に緩和。（入国者数の上限が撤廃され、個人の外国人旅行者の入国も解禁されるなど、制限はほぼコロナ禍前の状態に。）

【インバウンドによる米の需要増に係る試算】

※ 外国からの訪日客が1日2食（入国日、出国日については1食）、米を食べると仮定して試算。

	訪日外客数／ 訪日外国人消費動向調査より		試算	
	訪日外国人数	平均泊数	訪日外国人当たり 米食回数	訪日外国人による 米の需要量
R4/R5年 （7月～6月）	1,404万人	8.8泊（注2）	17.7回	1.9万トン
R5/R6年 （7月～6月）	3,213万人 （2.3倍）	10.1泊	20.2回	5.1万トン （+3.1万トン）

注1：訪日外国人は一回当たり78gの米を消費すると仮定。（FAOデータにおいて外国人一人当たりの供給カロリーが日本人の1.2倍であることに基づき設定。）

注2：令和4年の訪日外国人消費動向調査は長期滞在者に結果が偏っていることから、直近で代替となる令和元年のデータを使用。

（参考）国内旅行者数（観光庁 旅行・観光消費動向調査）

（単位：万人）

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
国内旅行者数	R4/R5年	2,243	3,207	2,660	2,303	2,632	2,469	1,975	1,865	2,962	2,425	3,292	2,552	30,585
	R5/R6年	2,464	3,603	2,848	2,368	2,727	2,681	2,278	2,050	2,959	2,721	3,381	2,796	32,875
	対前年比	110%	112%	107%	103%	104%	109%	115%	110%	100%	112%	103%	110%	107%

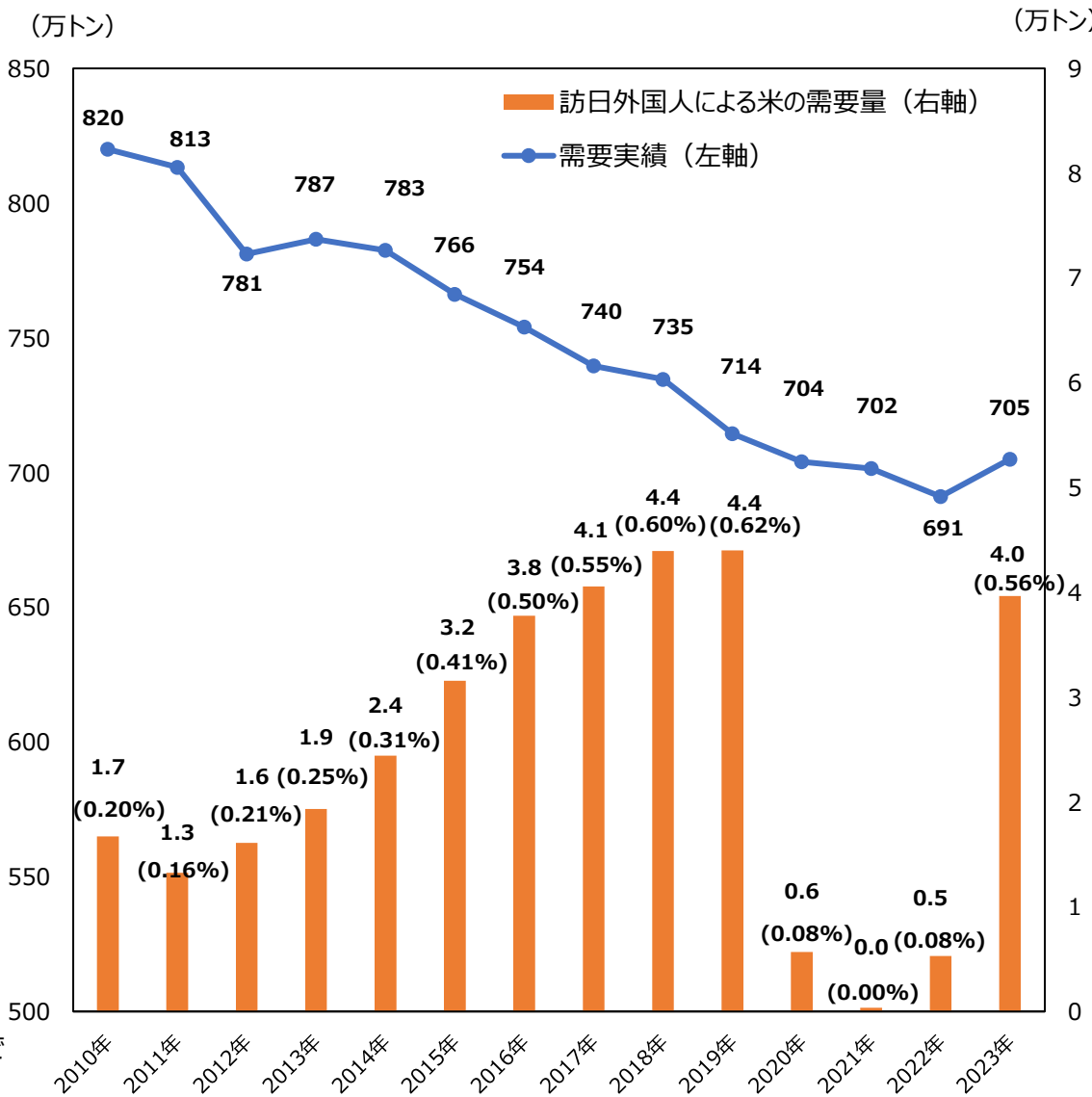
インバウンドによる米の需要増についての試算

訪日外国人による米の需要量についての試算

	訪日外客統計より	訪日外国人消費 動向調査より	試算
	訪日外国人数 (万人)	平均泊数	訪日外国人による 米の需要量
2010年	861	12.4	1.7万トン
2011年	622	13.6	1.3万トン
2012年	836	12.3	1.6万トン
2013年	1,036	11.9	1.9万トン
2014年	1,341	11.7	2.4万トン
2015年	1,974	10.2	3.2万トン
2016年	2,404	10.1	3.8万トン
2017年	2,869	9.1	4.1万トン
2018年	3,119	9.0	4.4万トン
2019年	3,188	8.8	4.4万トン
2020年	412	8.8	0.6万トン
2021年	25	8.8	0.0万トン
2022年	383	8.8	0.5万トン
2023年	2,507	10.1	4.0万トン
(直近1年) 2023年10月 ～ 2024年9月	3,457	10.1	5.5万トン

(注) 2020～2022年の平均泊数については、当該年度の調査が不完全であったり、結果が偏っていることから、直近で代替となる2019年のデータを使用して試算している。(計算方法は21ページと同様。)

主食用米の需要実績と訪日外国人による米の需要量



令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)

- 全国の主食用米の作付面積は、都道府県ごとの増減があるものの、前年実績(124.2万ha)から1.7万ha増加し、125.9万haとなった。
- 戦略作物等の作付面積は、飼料用米及び米粉用米が減少し、新市場開拓用米、加工用米及びWCS用稲が増加するとともに、麦、大豆及び飼料作物等については、1.8万haの畑地化により、水田における作付面積(基幹作)が減少した。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等									(万ha)
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	飼料作物 そば なたね	戦略作物等 合計面積	備蓄米
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵 粗飼料用稲〕					
H30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R元年産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R2年産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R3年産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R4年産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R5年産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1	3.5
R6年産	125.9	5.0	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3	3.0
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	0.3	0.2	0.8	1.3 (1.8)※	—

注1：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲）は取組計画の認定面積。
注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。
注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
※R6年産畑地化面積の戦略作物等合計面積欄の1.8万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

令和6年産の水田における作付状況(都道府県別 令和6年9月15日時点)①

都道府県	主食用米			戦略作物等											備蓄米	【参考】 R6年 畑地化面積
				加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば	なたね		
					新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲	その他							
	①	前年産 (5年産) ②	増減 ①－②													
全国計	125.9万	124.2万	1.7万	50,197	11,246	6,330	98,666	56,479	69	103,099	84,416	49,471	23,984	575	30,014	17,653
北海道	83,700	82,200	1,500	6,800	2,515	153	5,303	2,484	－	31,782	16,498	8,944	5,430	371	1,814	11,113
青森	37,200	33,800	3,400	680	499	9	5,351	933	－	506	4,814	2,768	967	5	4,040	1,081
岩手	43,100	42,800	300	1,277	435	17	4,802	2,532	1	3,494	4,052	6,134	569	12	644	604
宮城	58,400	57,200	1,200	945	1,155	86	7,228	2,974	1	2,231	9,388	4,840	402	0	2,201	338
秋田	72,200	69,900	2,300	8,419	544	275	2,453	1,367	2	142	8,475	1,765	3,484	4	2,682	344
山形	52,400	52,400	0	4,309	476	103	4,663	1,366	3	89	4,497	2,257	4,128	1	3,422	1,010
福島	56,500	53,100	3,400	429	178	15	6,967	1,098	0	376	875	1,552	1,395	89	5,558	228
茨城	59,900	57,800	2,100	1,291	1,089	95	10,347	638	1	3,866	671	439	389	0	125	335
栃木	49,000	47,200	1,800	1,912	60	909	11,556	2,329	3	7,488	353	2,730	1,137	6	1,062	330
群馬	12,800	12,400	400	1,355	2	213	1,018	645	－	2,208	129	175	24	1	－	76
埼玉	28,400	27,500	900	144	58	918	2,073	120	－	2,228	364	141	88	2	40	9
千葉	48,300	45,800	2,500	2,072	49	119	6,642	1,307	－	469	233	275	4	－	123	24
東京	107	111	▲ 4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
神奈川	2,840	2,850	▲ 10	－	－	0	12	3	－	3	7	3	1	－	－	3
新潟	101,400	100,600	800	6,760	1,830	1,389	2,866	687	0	215	3,911	295	822	－	4,658	130
富山	31,200	31,200	0	1,143	358	320	1,914	538	－	3,258	3,668	334	256	19	1,848	66
石川	21,200	20,800	400	529	89	236	507	124	－	1,214	983	24	149	－	164	2
福井	21,900	21,500	400	493	253	125	1,531	166	6	5,156	130	44	523	－	700	10
山梨	4,590	4,660	▲ 70	68	－	21	18	23	－	67	96	21	111	0	－	－
長野	29,000	29,300	▲ 300	756	297	31	306	285	－	2,487	634	549	1,998	0	216	227
岐阜	19,600	19,700	▲ 100	1,139	140	72	2,777	320	－	3,718	298	570	248	－	104	16
静岡	14,400	15,000	▲ 600	99	1	8	774	332	－	258	30	40	29	－	4	7
愛知	25,000	24,700	300	650	43	303	1,309	183	－	5,722	84	135	5	10	143	－
三重	24,500	24,900	▲ 400	176	128	78	1,951	304	－	7,084	247	152	11	8	－	5

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。
※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。
※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
※4 R6年畑地化面積は、R6年度に畑地化促進事業で採択された面積。

※畑地化事業による畑地化した面積は含まない。

令和6年産の水田における作付状況(都道府県別 令和6年9月15日時点)②

都道府県	主食用米			戦略作物等										備蓄米	【参考】 R6年 畑地化面積	
				加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば			なたね
	前年産 (5年産) ②	増減 ①－②	新市場 開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕	その他								
①	②	①－②														
滋賀	27,400	27,000	400	505	250	50	1,507	334	－	8,505	537	189	120	12	231	7
京都	13,000	13,200	▲ 200	530	21	12	119	178	－	275	264	43	140	－	－	37
大阪	4,290	4,430	▲ 140	0	－	1	6	6	－	0	5	1	－	－	－	14
兵庫	32,200	32,500	▲ 300	667	215	40	690	1,040	6	1,954	1,620	730	108	8	－	96
奈良	7,960	8,200	▲ 240	11	－	31	32	41	－	72	23	5	2	0	－	9
和歌山	5,680	5,780	▲ 100	－	－	1	2	4	－	9	8	2	2	－	－	1
鳥取	11,600	11,700	▲ 100	17	33	1	717	425	0	81	569	757	321	0	77	187
島根	15,700	15,900	▲ 200	200	2	7	735	835	0	252	566	420	284	6	25	63
岡山	27,200	26,900	300	281	196	81	1,143	533	－	1,168	1,003	835	105	0	34	40
広島	20,100	20,500	▲ 400	358	55	93	355	740	0	308	233	907	262	0	11	127
山口	15,800	16,000	▲ 200	972	101	16	999	441	0	817	654	846	49	0	－	1
徳島	9,790	9,480	310	19	38	12	621	254	－	52	4	86	2	－	62	－
香川	9,770	10,100	▲ 330	53	34	8	190	343	－	1,184	33	245	9	1	－	－
愛媛	12,700	12,800	▲ 100	45	－	5	326	255	－	421	319	171	4	－	－	15
高知	10,100	10,200	▲ 100	83	－	23	1,047	334	－	3	51	127	0	－	2	75
福岡	32,200	32,300	▲ 100	214	13	232	2,160	2,307	－	1,190	7,691	405	34	－	7	309
佐賀	22,000	21,700	300	376	10	16	709	2,280	－	1,107	6,455	357	15	1	－	86
長崎	9,360	10,000	▲ 640	5	5	5	122	1,597	3	86	255	1,690	37	1	－	135
熊本	28,800	28,900	▲ 100	667	39	160	1,392	9,401	21	776	2,110	1,803	169	13	－	341
大分	17,800	18,100	▲ 300	159	5	8	1,793	2,799	－	656	1,100	905	86	2	18	53
宮崎	12,400	12,700	▲ 300	2,108	33	21	886	7,375	20	17	204	3,018	26	0	－	65
鹿児島	15,600	15,800	▲ 200	1,443	1	10	745	4,158	1	102	277	1,720	41	2	－	33
沖縄	557	544	13	40	－	2	1	43	－	－	－	23	－	－	－	－

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。
※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。
※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
※4 R6年畑地化面積は、R6年度に畑地化促進事業で採択された面積。

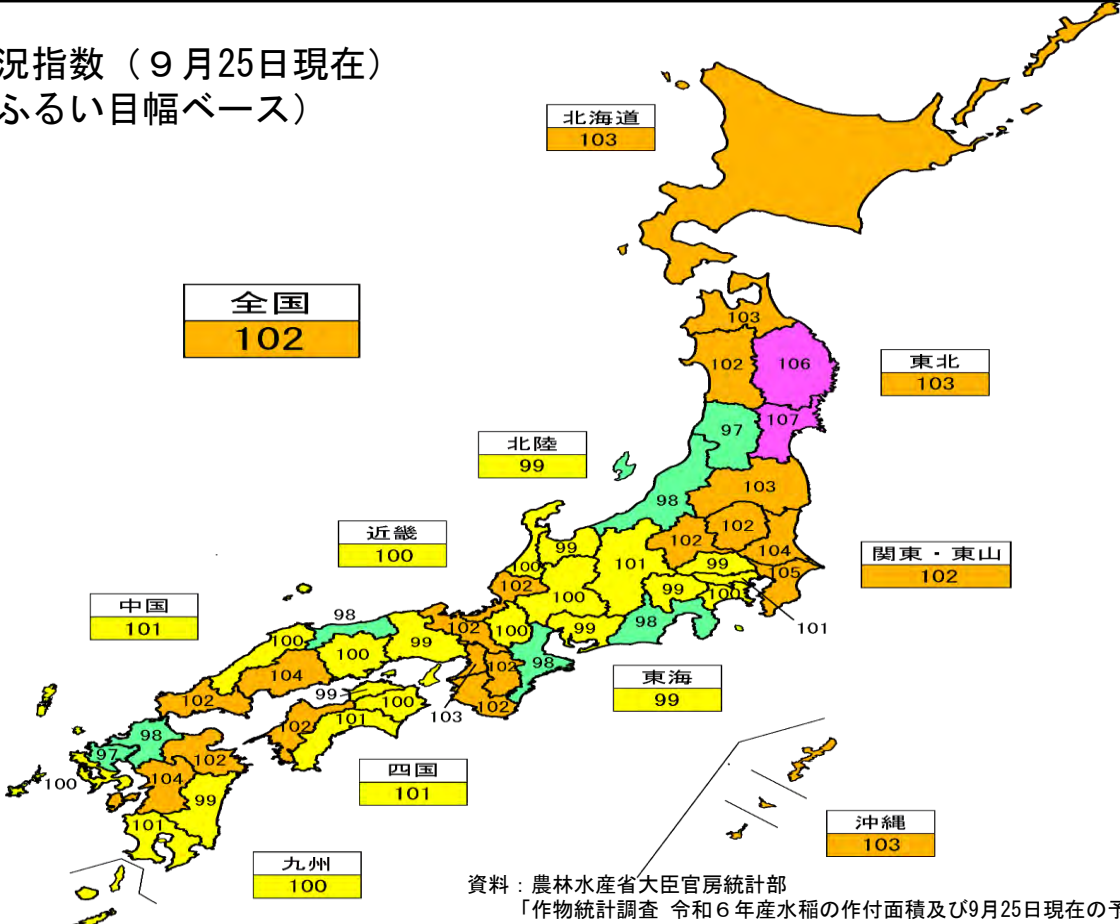
※畑地化事業による畑地化した面積は含まない。

令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

- 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は151万4,000ha（前年産に比べ1万7,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）と見込まれる。
- 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は544kgと見込まれる。これは、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、作柄は平年並み以上と見込まれるためである。
- 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は683万3,000t（前年産に比べ22万3,000t増加）と見込まれる。
- 農家等が使用しているふりい目幅ベースの全国の作況指数は102と見込まれる。

全国農業地域・都道府県別作況指数（9月25日現在）
（農家等が使用しているふりい目幅ベース）

作 柄 の 良 否 （ 作 況 指 数 ）		
	良	（ 106 以上 ）
	やや良	（ 105 ～ 102 ）
	平年並み	（ 101 ～ 99 ）
	やや不良	（ 98 ～ 95 ）



資料：農林水産省大臣官房統計部
「作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量」

令和6年産米の需要に応じた生産・販売の推進状況（令和5年9月1日から令和6年8月31日まで）

- 昨年11月以降、全国会議を開催し、直近の需給環境や予算事業等について説明。
- また、産地ごとの意見交換（キャラバン）を個別に実施しており、今後も生産者団体や地方自治体とも連携しながら、県農業再生協議会やＪＡ以外の幅広い集荷業者等に対してもキャラバンを実施。

全国会議（web会議）

- ① R5. 11. 13 （参加者約800名）
- ② R5. 12. 26 （参加者約840名）
- ③ R6. 3. 8 （参加者約730名）
- ④ R6. 5. 31 （参加者約740名）
- ⑤ R6. 8. 1 （参加者約800名）

産地ごとの意見交換（キャラバン）

【本省対応】

87回

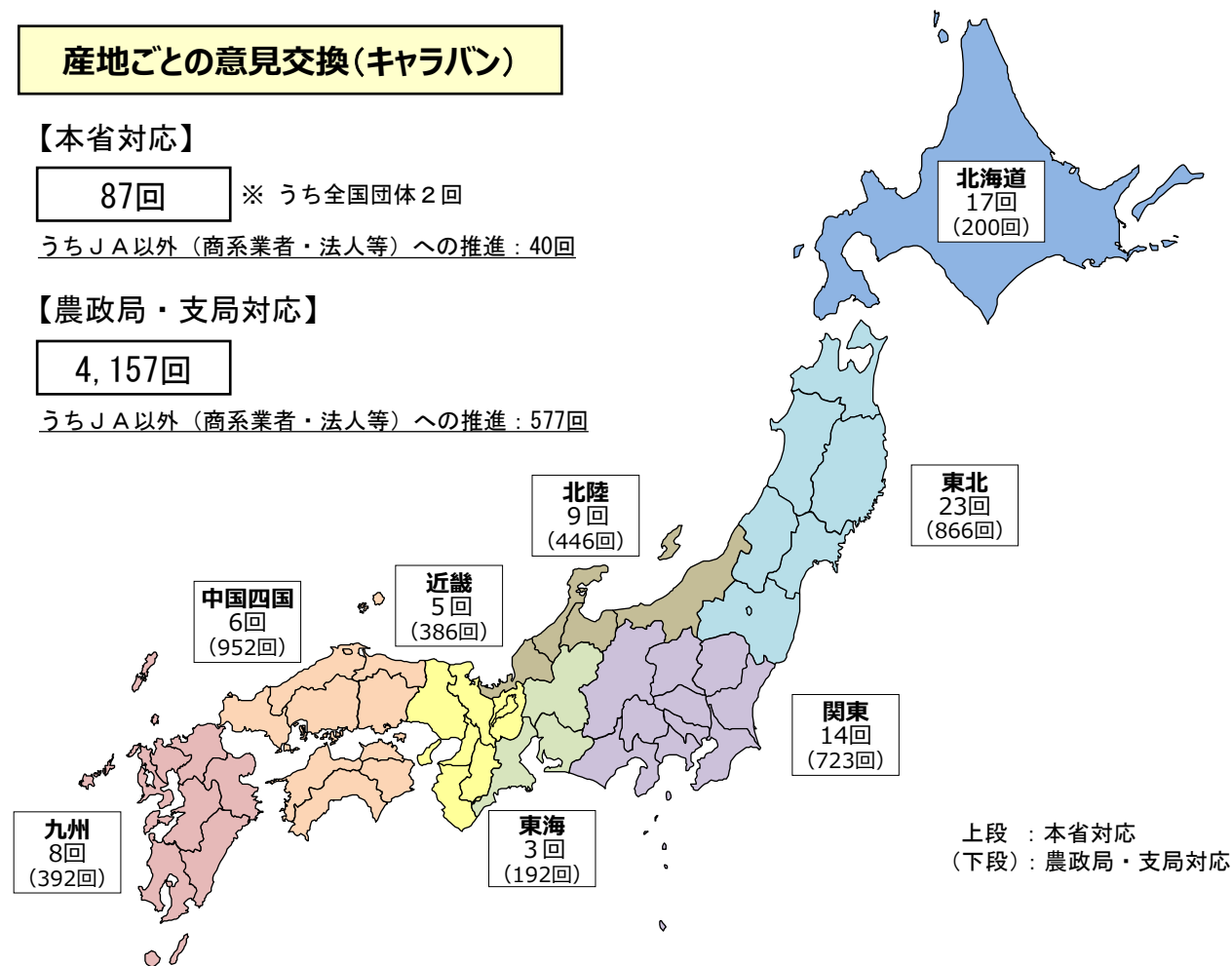
※ うち全国団体2回

うちＪＡ以外（商系業者・法人等）への推進：40回

【農政局・支局対応】

4,157回

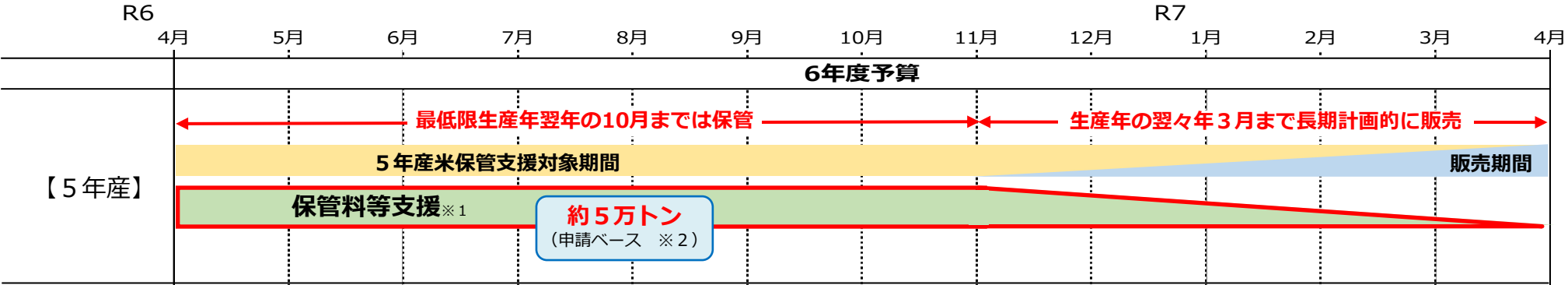
うちＪＡ以外（商系業者・法人等）への推進：577回



令和6年度の保管料支援のイメージ（米穀周年供給・需要拡大支援事業）

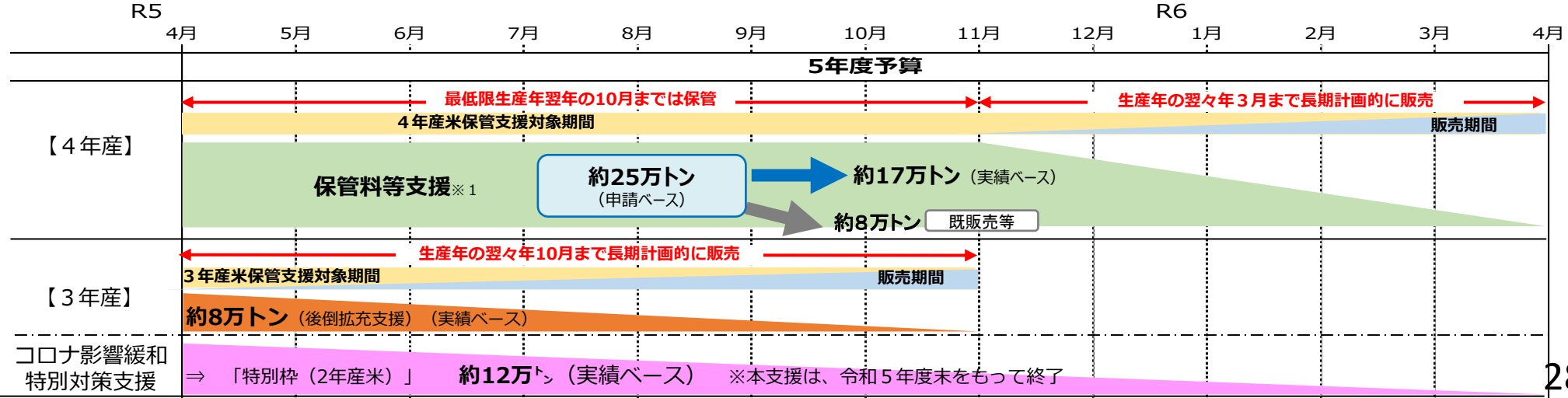
- 令和6年度の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」の周年供給・需要拡大支援において1次公募を実施。
- 今回の公募では、令和5年産米の長期計画的な販売の取組として、9事業体から約5万トンが申請。
- 新型コロナウイルス感染症による米の需要減少の影響等を緩和するため措置した令和2年産米のコロナ影響緩和特別対策支援や令和3年産米の後倒拡充支援については、全ての取組が執行され令和5年度をもって終了。

【令和6年度保管経費等の支援イメージ】



※1 保管料等の支援対象経費 保管料：米穀の保管経費 金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息 集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費
※2 事業実施主体からの申請（令和6年5月末時点）

（参考）令和5年度保管経費等の支援イメージ



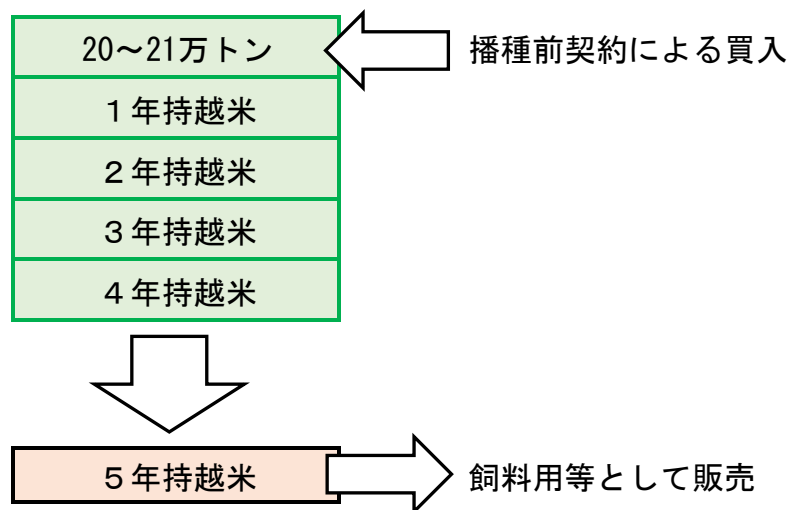
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に20万トン～21万トン（※）買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度とし、CPTPP協定後は豪州枠の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度としてきたが、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、豪州枠の輸入量に相当する量の買入れは、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模となるよう見直し。これに即して備蓄運営が行われれば、基本的な買入数量は20万トン～21万トンとなる。

基本的な政府備蓄米の運用

原則20～21万トン × 5年間程度 → 100万トン程度



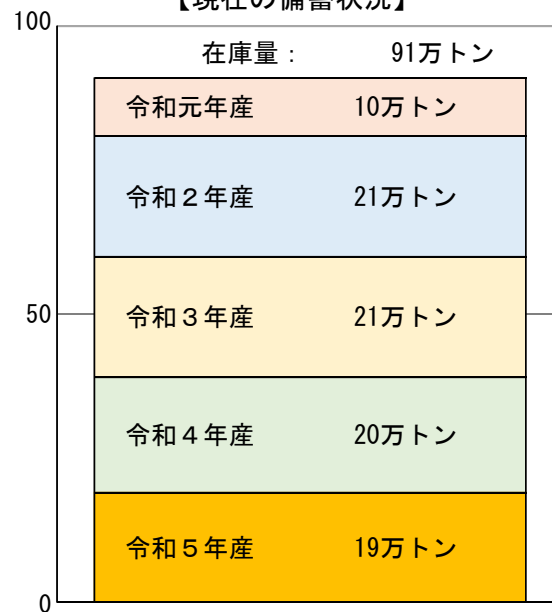
政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	20万トン
令和5年産	19万トン
令和6年産	17万トン（予定）

注：ラウンドの関係で在庫量と内訳が一致しない場合がある。

【現在の備蓄状況】



政府備蓄米の買入入札の結果

○ 令和6年産備蓄米の政府買入入札については、令和6年6月24日までに7回実施し、買入予定数量20万5,509トンに対して17万2,016トンの落札となった。

令和6年産備蓄米の買入入札結果

(単位:トン)

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①
北海道	4,686	4,686	100.0%
青森	28,586	24,416	85.4%
岩手	3,415	3,415	100.0%
宮城	11,276	11,276	100.0%
秋田	21,322	14,512	68.1%
山形	20,195	20,195	100.0%
福島	26,313	26,313	100.0%
茨城	1,086	616	56.7%
栃木	6,184	5,773	93.4%
群馬			
埼玉	204	204	100.0%
千葉	662	642	97.0%
東京			
神奈川			
新潟	24,499	24,499	100.0%
富山	11,880	10,261	86.4%
石川	7,841	874	11.1%
福井	4,597	2,500	54.4%
山梨			
長野	1,449	1,352	93.3%
岐阜	423	423	100.0%
静岡	19	19	100.0%
愛知	835	722	86.5%
三重	262	-	0.0%
滋賀	1,327	1,159	87.3%
京都			
大阪			

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①
兵庫			
奈良			
和歌山			
鳥取	389	389	100.0%
島根	126	126	100.0%
岡山	822	191	23.2%
広島	28	28	100.0%
山口			
徳島	933	235	25.2%
香川			
愛媛			
高知	10	10	100.0%
福岡	52	35	67.3%
佐賀	214	-	0.0%
長崎			
熊本	274	-	0.0%
大分	91	91	100.0%
宮崎			
鹿児島			
優先枠計 ①	180,000	154,962	86.1%
一般枠 ②	25,509	17,054	66.9%
合計 (①+②)	205,509	172,016	83.7%
うちCPTPP分		5,509	

買入入札結果の推移

(単位:トン)

年産	買入予定 数量 ①	落札 数量 ②	落札率 ②/①
平成23年産	200,000	67,638	33.8%
平成24年産	200,000	83,390	41.7%
平成25年産	250,000	183,092	73.2%
平成26年産	250,000	250,000	100.0%
平成27年産	250,000	250,000	100.0%
平成28年産	225,000	225,000	100.0%
平成29年産	200,000	197,728	98.9%
平成30年産	200,000	122,949	61.5%
令和元年産	209,140	185,314	88.6%
令和2年産	207,000	207,000	100.0%
令和3年産	207,000	207,000	100.0%
令和4年産	207,000	207,000	100.0%
令和5年産	208,000	201,725	97.0%
令和6年産	205,509	172,016	83.7%

加工原材料用向け政府備蓄米の販売について

- 令和5年産のふるい下米の減少により、加工原材料用の国内産米（加工用米を含む）の不足が見込まれることから、端境期の供給不足分として、政府備蓄米を加工原材料向けに販売。
- 今回の状況を踏まえ、来年度以降も前年産の加工原材料用の国内産米の供給量が大きく減少し、米加工品製造業者による当年産への切替えの前倒し及びMA米への代替が行われてもなお端境期の供給が不足すると認められる場合には、当年8月以降に政府備蓄米の入札による販売を実施。

<政府備蓄米の加工原材料用販売の入札状況（令和6年度）>

販売開始時期

令和6年8月から数回程度入札を実施

販売対象者

「米穀の買入れ・販売等に関する基本要領」（平成21年5月29日付け21総食第113号総合食料局長通知。以下「基本要領」という。）第4章I第2の1の(2)及び(3)に規定する加工原材料用の買受資格を有する者であって、今回の政府備蓄米購入契約数量以上に令和7年産の加工用米の購入を希望する者

販売価格

今般の政府備蓄米の加工原材料用への販売にあたっては、「財政法」及び「予算決算及び会計令」に基づき、現在の価値（市場価格等）により最低販売価格を設定し、競争入札を実施。

販売対象用途

加工原材料用の使用用途：基本要領第4章I第1の2の(2)の各号に掲げる使用用途。

- ア 酒類用（焼酎用、泡盛用（沖縄県下の買受資格者に販売する場合に限る。）リキュール類用、スピリッツ用、みりん用、ビール用、雑酒用又は純粹酵母用）
イ 調味料用（味噌用、食酢用、醤油用、こうじ（清酒用こうじは除く。）用、たれ調味料用、もろみ（清酒用もろみは除く。）用又は香辛料用）
ウ 菓子用（米菓用又は和菓子用） エ 米穀粉用（上新粉やみじん粉等の米穀粉用、乳児穀粉用、玄米粉用又はビーフン粉用）
オ 加工品用（甘酒用、玄米茶用、漬物もろみ用、朝食シリアル用、乳児食用、ライススターチ用、味米用、いり玄米スープ用又は水産練製品用）
カ 小麦粉混入製品用（米穀粉入りめん用又は米穀粉入りフライ用） キ その他農産局長が必要と認める用途（※）
（※）清酒用、加工米飯用（肉又は魚、甲殻類、軟体動物その他の水棲動物の混入割合が3%以上（仕込時）である密封包装したレトルト米飯、冷凍米飯等であって、2ヶ月以上の保存に耐えられるもの）、ビタミン強化米用、アルファ化米又はアルファ化米を原料とする製品用、包装もち用又は米穀粉混入製品用

販売対象米穀・数量

対象米穀 令和2年産政府備蓄米
（国内産米穀（水稻うるち玄米1・2等））
対象数量 1万トン（対象数量を複数回に分けて入札を実施）

【これまでの入札結果】

◆第1回～第3回入札 契約数量：2,372トン
入札執行日：第1回 8月20日
第2回 9月10日
第3回 9月25日

◆第4回入札 契約数量：契約締結後に公表
入札執行日：10月21日
対象数量：7,628トン

コメ・コメ加工品の輸出実績

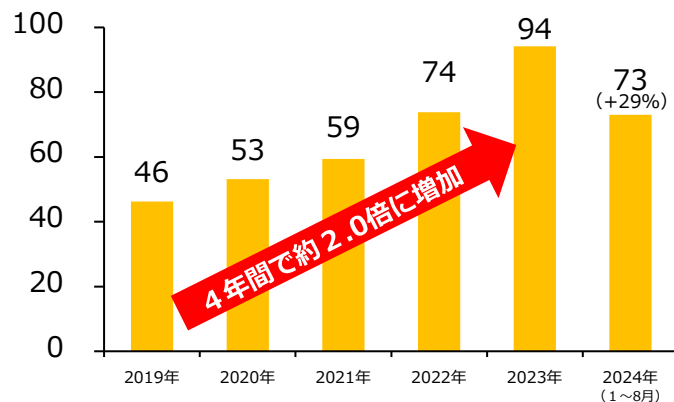
品 目 名		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		2024年		(参考) 主な輸出先国・地域	
							対前年比	1～8月	対前年同期比		
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	35,531トン	36,569トン	45,959トン	53,931トン	58,473トン	+8%	42,259トン	+16%	アメリカ 中国 香港 台湾 韓国	
		金額	329億円	347億円	524億円	613億円	577億円	-6%	392億円		+7%
	コメ (援助米を除く)	数量	17,381トン	19,781トン	22,833トン	28,928トン	37,186トン	+29%	27,847トン	+23%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 カナダ
		金額	46億円	53億円	59億円	74億円	94億円	+27%	73億円	+29%	
	米菓 (あられ・せんべい)	数量	4,033トン	4,222トン	5,141トン	4,523トン	4,565トン	+1%	2,905トン	+1%	アメリカ 台湾 香港 韓国 シンガポール
		原料米換算	3,428トン	3,589トン	4,370トン	3,845トン	3,880トン	+1%	2,469トン	+1%	
		金額	43億円	45億円	56億円	55億円	61億円	+11%	40億円	+8%	
	日本酒 (清酒)	数量	24,928 キログラム	21,761 キログラム	32,052 キログラム	35,894 キログラム	29,196 キログラム	-19%	19,699 キログラム	+3%	アメリカ 中国 香港 韓国 台湾
		原料米換算	14,041トン	12,257トン	18,054トン	20,218トン	16,445トン	-19%	11,096トン	+3%	
		金額	234億円	241億円	402億円	475億円	411億円	-13%	269億円	+1%	
	パックご飯等	数量	1,018トン	1,205トン	1,129トン	1,384トン	1,593トン	+15%	1,406トン	+45%	アメリカ 台湾 香港 オーストラリア シンガポール
		原料米換算	535トン	634トン	594トン	727トン	837トン	+15%	739トン	+45%	
		金額	5億円	7億円	6億円	8億円	10億円	+26%	9億円	+45%	
	米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量	118トン	249トン	88トン	173トン	101トン	-41%	87トン	+53%	アメリカ タイ ドイツ 台湾 ロシア
		原料米換算	146トン	308トン	108トン	213トン	125トン	-41%	108トン	+53%	
		金額	0.3億円	0.7億円	0.6億円	1.0億円	0.8億円	-21%	0.8億円	+67%	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品		数量 (原料米換算)	18,062トン	20,723トン	23,535トン	29,868トン	38,148トン	+28%	28,694トン	+24%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 カナダ
		金額	52億円	60億円	66億円	83億円	105億円	+27%	83億円	+31%	

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注1：米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。
注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。
注3：「（参考）主な輸出先国・地域」は2024年1～8月の輸出金額上位5か国・地域を記載。

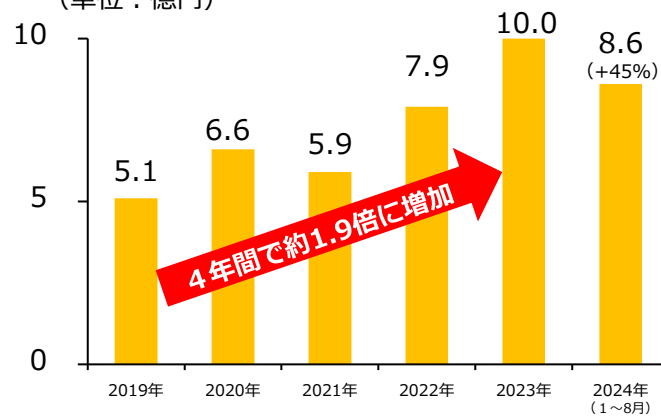
コメ・パックご飯等・米菓の輸出実績の推移

- コメについては、海外における日本食レストランやおにぎり店などの需要開拓を進めた結果、2023年の輸出額は94億円（対前年比+27%増）となり、直近4年間で倍増。2024年上半期も、外食向けを中心に堅調に増加。
- パックご飯等については、台湾でのEC向けの販売やアメリカでの小売向けの販売等が堅調であったことから、2023年の輸出額・輸出量はともに増加。2024年上半期も主にアメリカ向けEC・小売向け等で堅調に増加。
- 米菓については、韓国での小売店からの引き合いの増加等があったものの、サウジアラビアでの買い控え等による減少があったため、2023年の輸出額は増加、輸出量は前年並。2024年の上半期は小売向けを中心に輸出が伸びており、輸出額・輸出量はともに増加。

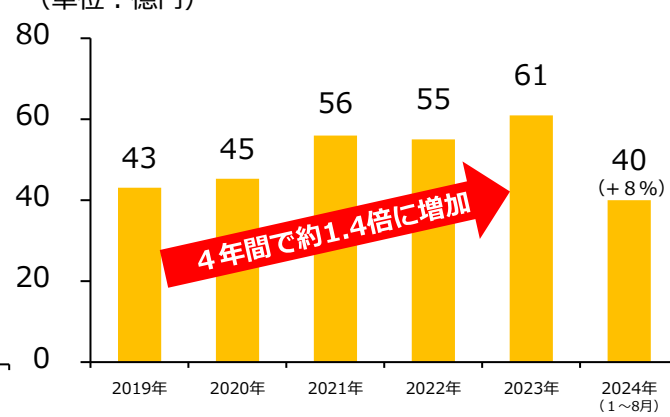
● コメの輸出実績
(単位：億円)



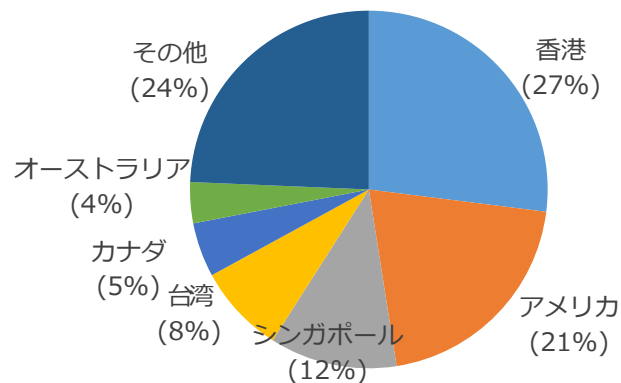
● パックご飯等の輸出実績
(単位：億円)



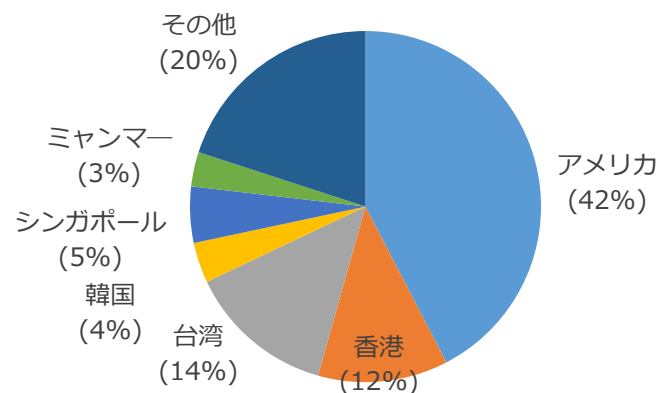
● 米菓の輸出実績
(単位：億円)



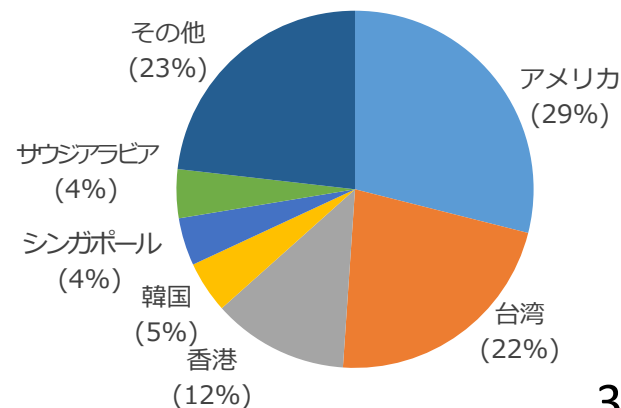
■ コメの輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年1~8月)



■ パックご飯等の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年1~8月)



■ 米菓の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年1~8月)



農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略 品目別輸出目標 「コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品」

1. 国別輸出額目標

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
合計	52億円	125億円	
香港	15億円	36億円	・輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓しており、今後もレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る ・現地系小売やレストランチェーンの深掘りにより、更なる市場開拓を図る
アメリカ	7億円	30億円	・西海岸・東海岸では輸出事業者が日系小売店需要を開拓。今後は日本食レストラン、おにぎり店等や現地系、EC等の小売需要を開拓。現時点では進出がないが、人口が増加しており、日本食レストランの大幅な増加も期待される中部では、新たな市場として需要開拓を図る ・パックご飯や米粉の主要な輸出先国であり、更なる市場開拓を図る
中国	4億円	19億円	・大手米卸等が日系外食店やEC、ギフトボックス等の贈答用に対応しており、更なる開拓を図る ・コスト削減のためには指定精米工場等の活用に加えて工場等の追加や輸入規制の緩和が不可欠
シンガポール	8億円	16億円	・輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓。更にレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る ・現地系小売やレストランチェーンの深掘りにより、更なる市場開拓を図る
台湾	5億円	9億円	・輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓 ・現地でジャボニカ米が生産されていることから、日本食レストランでの日本産米採用による他店舗との差別化により需要開拓を図る
その他	13億円	14億円	・UAEや欧州、カナダ等のコメを主食としない地域では、寿司等の日本食需要拡大に合わせて日本産米の需要開拓を図る ・EU、英国を中心に拡大するグルテンフリー需要の取り込みを通じた米粉・米粉製品の需要開拓を図る

2. 輸出産地の育成・展開

<輸出産地数>

- ・30～40産地（先進的なJA等をモデル産地として、千トン超の輸出用米の生産に取り組む産地を育成する）

<今後育成すべき国内産地>

- ・国際競争力を有するコメの生産と農家手取り収入の確保の両立を図ることで、大ロットで輸出用米を生産・供給する産地

<生産基盤の強化やロットの拡大、産地間連携の実現に向けた方策>

- ・輸出事業者と産地が連携して取り組む、多収米の導入や作期分散等の生産・流通コスト低減の取組の支援により、輸出用米の生産拡大（主食用米からの作付転換）を推進
- ・都道府県やJAグループとの連携などにより、更なる輸出産地の強化や掘り起こしを推進

3. 加工・流通施設の整備

- ・パックご飯メーカーや米粉・米粉製品メーカーが輸出に取り組んでいるが、輸出先国・地域の規制等への対応が必要になるケースがあることから、当該規制等対応のための取組や輸出向け生産に必要な機械・設備の導入等を支援
- ・国内流通も含め、低コスト化や作業効率の改善につながる産地から精米工場への推奨フレコンによる出荷や鉄道へのモーダルシフトを推進

4. 品目別団体を中心とした販路開拓

- ・（一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）が策定した「中期計画」に基づく、主要輸出先国・地域での新たな購買層の深掘りや輸出事業者の進出が不十分な国・地域（UAE・欧州等）での市場開拓のための、輸出先国・地域のマーケット情報の収集・発信、プロモーション活動を実施。実施に際しては、他の品目団体や輸出支援プラットフォームとも連携。プロモーションの財源には、国庫補助金のほか会費収入も一部活用
- ・日本産米に対する理解を進めるため、輸出支援プラットフォームとも連携して、消費者と事業者に対し、日本産米の多様性や特徴をPRするなど、マーケットに応じた訴求を図る

<戦略的サプライチェーンの構築>

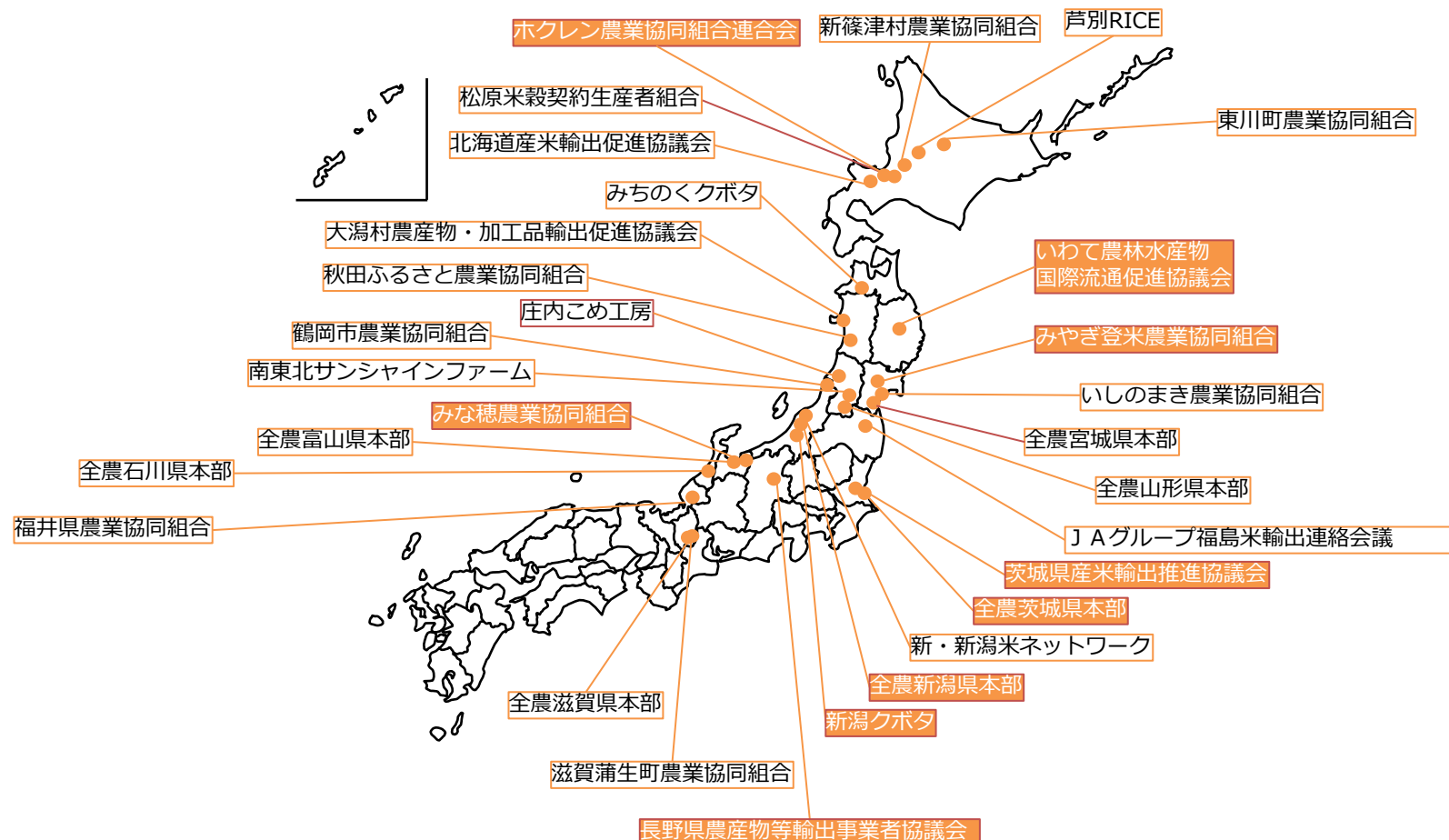
- ・国別地域別の特色を踏まえたマーケティング戦略の下での現地商流を構築するため、現地エージェントによる現地系スーパー・レストランの販路開拓
- ・輸出先国の需要に対応するため、輸出事業者や産地が連携して輸出用米を生産・調整する体制を構築

主なコメの輸出産地

○ コメの輸出を更に伸ばすためには、コメの輸出量の9割を占める「モデル輸出産地」（「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」でリスト化した年間1,000トン超のコメ輸出を目標とする産地）を中心に、低コスト生産等の取組を支援し、競合する他国産米との価格競争力を高めていく必要。

モデル産地（30産地）（令和6年1月末現在）

- ・ モデル輸出産地で、令和5年のコメの輸出量約37,000トンの9割をカバー。
- ・ 年間1,000トン超の実績のある産地も存在（オレンジ色の産地）。
- ・ それらの産地では、多収性品種の導入等による低コスト生産と大口ロット安定供給できる産地形成が実現されているところ。



注）モデル産地の輸出量の割合は、各産地から聞き取った実績を積み上げたものを基に計算。

主なコメの輸出産地

ホクレン農業協同組合連合会

【取組内容】

国内需要への安定供に取組む一方で、将来的な国内需要の減少傾向を見据え、平成27年からコメの輸出を開始。

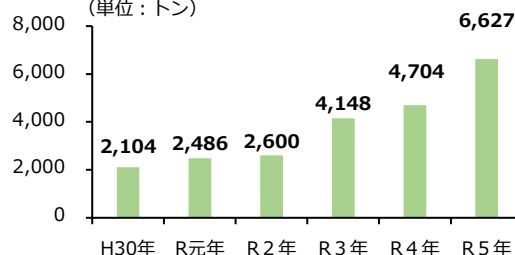
食味等の品質バランスへの影響も考慮しながら、**直播栽培**の拡大や**多収品種の開発・普及**により生産コストの削減に継続的に取り組むことと、北海道米の良食味のアピールと認知度向上の取組により、輸出拡大を推進。

【生産実績】

令和5年の生産量は6,627トンで、台湾、香港、中国、シンガポール、タイ等に輸出。



○輸出用米の生産量
(単位：トン)



みやぎ登米農業協同組合

【取組内容】

「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、つきあかり等の**多収性品種**の導入と併せて、**耕畜連携による堆肥の有効活用**を図り**低コスト生産を推進**。

輸出用米の生産者数が増加（H30年235人→R5年532人）。

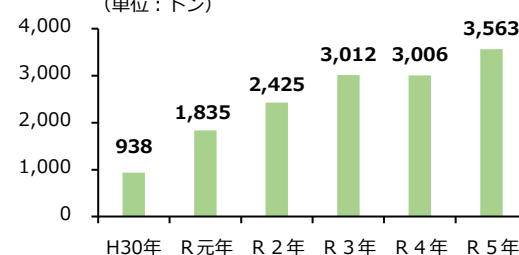


【生産実績】

R7年度の目標として掲げていた3,000トンをR3年度に達成。

令和5年の生産量は3,563トンで、香港、米国、シンガポール等に輸出。

○輸出用米の生産量
(単位：トン)



新篠津村農業協同組合

【取組内容】

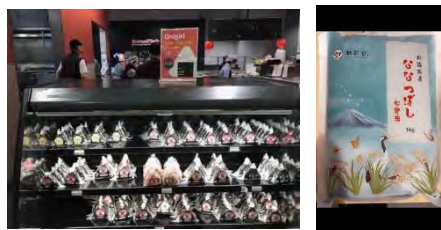
健康や安全・安心に対する関心が強まり、クリーン農業への期待は一段と高まってきているため、安全・安心で美味しい農産物の供給に向けて、**組合員全員が栽培履歴の記録**を行うとともに、化学肥料や農薬の使用を減らすための取組を推進。土づくりについても、**稲わらの堆肥化**を図るなど、環境との調和に配慮。

生産コストの低減のため、**直播品種の導入**や、**ドローンなどのスマート農業機器の活用**による労働時間の削減や生産の省力化等の取組を推進。

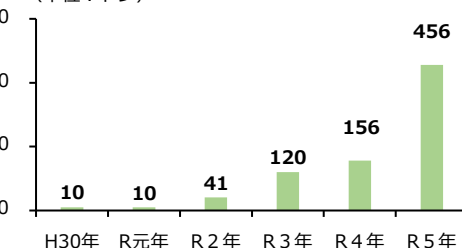
平成26年より、東京のおむすび店からのアメリカ出店の話を契機に輸出を開始。

【生産実績】

令和5年の生産量は456トンで、米国、フランス、シンガポール、台湾等に輸出。



○輸出用米の生産量
(単位：トン)



茨城県産米輸出推進協議会

【取組内容】

協議会のオブザーバーである(株)百笑市場^{いちば}では、「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、**多収性品種**（にじのきらめき、ハイブリッドとうごう3号）の**契約栽培を推進**。そのほか、**ドローンによる直播・病害虫防除等の省力・低コスト化の取組を推進**。

協議会の参加者（生産者）数が増加（H28年8人→R5年85人）。

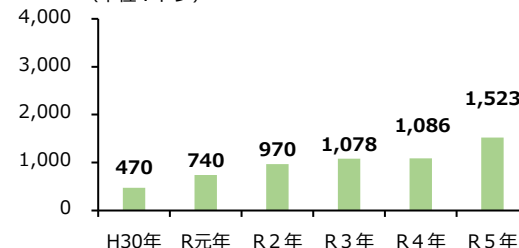


【生産実績】

令和5年の生産量は1,523トンで、米国、香港、シンガポール等に輸出。

※協議会の生産量のうち(株)百笑市場を通じた実績

○輸出用米の生産量
(単位：トン)



各国・地域で広がりを見せる「おにぎり」

- 日本産米で作ったおにぎりは、冷めてもやわらかさと粘りがあり、コメそのものの美味しさを伝えることが可能。
- おにぎりは、テイクアウトが可能で手軽に食べられ、外食に比べコストパフォーマンスも良いことから、近年、海外でも人気となっている。

(2023年12月時点)

(株) イワイ (アメリカ・フランス)

- アメリカ (NY、NJ) とフランス (パリ) におむすび専門店「おむすび権米衛」を展開。
- 玄米形態で輸出し現地店舗で精米することで、精米したてのコメを使ったおむすびを消費者へ提供。
- 国内外店舗を問わず、**店舗で使用される全てのコメを生産者と直接契約。**
- コロナ禍によるテイクアウト需要で売上げが増加。

(店舗数：4店舗)



百農社国際有限公司 (香港)

- 香港のオフィス、ショッピングモール、地下鉄駅構内等において、おむすび専門店「華御結」「OMUSUBI」を展開。
- コメは全て日本産を使用。品質の均一化・多店舗展開に対応するため、**おむすびは全て自社工場で製造。**
- 生産者とは**毎月1回ミーティング**を行い、ブランドコンセプトを共有。

(店舗数：141店舗)



(株) パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (シンガポール・香港・台湾・マレーシア・アメリカ (ハワイ))

- **DON DON DONKI**店内で、握りたてのおにぎりと精米したてのコメを提供する日本産米専門店「**富田精米 (シンガポール・マレーシア)**」「**安田 (やすだ) 精米 (香港・台湾・アメリカ (ハワイ))**」を展開。
- おにぎりを食べてもらう**飲食業**と日本産米を買ってもらう**物販業**が併存する従来にない**ハイブリッド型**。
- **玄米輸出、現地精米**をすることで、鮮度の高い日本産米を提供。

(店舗数：14店舗)



KNT-CTホールディングス (株) (アメリカ)

- 旅行会社として**日本の食材と日本産米の魅力**を海外へ向け発信し、地域創生を目指す「**コメイノベーション事業**」を開始。
- フードトラックでの、おにぎりのテスト販売を経て、期間限定店舗「**ONIGIRI SUN**」をロサンゼルスにオープン。
- 玄米輸出、現地精米した日本産米で、**握りたてのおにぎり**を提供。具材には**鮭・明太子・昆布**等の定番に加え、**大豆ミートそぼろ**等、**ヴィーガンにも対応**。飲料にも日本発の**玄米デカフェ**を提供。



需要見通しの様々な角度からの検証

- 需要見通しについて、①インバウンド需要量を控除した国内一人当たりの消費量を算出し推計、②精米ベースでの推計、③過去の需要実績からのトレンドで推計を実施し比較。
- 概ね現行の基本指針の推計値に近い結果だが、今後のインバウンド需要等の状況も踏まえ、推計方法について引き続き検討。

推計パターン	R6/7年 1人当たり 消費量 (kg)	R6/7年 主食用米等 需要量 (万トン)	推計方法
現行の基本指針	54.4	674	➤ 需要実績を人口で除した1人当たり消費量を推計し、人口を乗じる
①インバウンド	54.0	673	➤ 需要実績から推計によるインバウンド需要量を控除し、人口で除した国内1人当たり消費量を算出。 ➤ 国内1人当たり消費量に人口（推計値）を乗じて、インバウンドを控除した需要量を算出し、インバウンド需要量を足し合わせる。
②精米ベース	54.7	677	➤ 需要実績（玄米ベース）に精米歩留まり減少率を乗じて推計 ➤ 玄米換算（90.6%）
③マクロ	—	682	➤ H30年7月までの推計方法 ➤ 過去の需要実績からトレンドで推計

需要見通しの様々な角度からの検証 ①インバウンド

○ 訪日外客数及び平均泊数からインバウンド需要量を試算し、インバウンド需要量を控除した1人当たりの年間消費量を推計。国内1人当たり消費量の見通しに人口（推計値）を乗じて、インバウンドを控除した需要量を算出後、インバウンド需要量を足し合わせるにより需要見通しを推計。

年	需要実績	人口	訪日外客数	平均泊数 (※1)	インバウンド 需要量 (※2)	インバウンド需要量を 控除した需要実績	インバウンド需要量を 控除した1人当たりの 年間消費量
	①	②	③	④	⑤ = ③*④*2*78/0.906	⑥ = ①－⑤	⑦ = ⑥/②
	万トン	千人	万人	泊	万トン	万トン	kg
22/23	820.0	128,057	861	12.4	1.8	818.2	63.9
23/24	813.3	127,834	622	13.6	1.5	811.8	63.5
24/25	781.1	127,593	836	12.3	1.8	779.3	61.1
25/26	786.6	127,414	1,036	11.9	2.1	784.5	61.6
26/27	782.5	127,237	1,341	11.7	2.7	779.8	61.3
27/28	766.2	127,095	1,974	10.2	3.5	762.7	60.0
28/29	754.0	127,042	2,404	10.1	4.2	749.8	59.0
29/30	739.6	126,919	2,869	9.1	4.5	735.1	57.9
30/元	734.6	126,749	3,119	9	4.8	729.8	57.6
元/2	714.4	126,555	3,188	8.8	4.8	709.6	56.1
2/3	704.0	126,146	412	8.8	0.6	703.4	55.8
3/4	701.5	125,502	25	8.8	0.0	701.5	55.9
4/5	691.1	124,947	383	8.8	0.6	690.5	55.3
5/6	704.9	124,352	2,507	10.1	4.4	700.5	56.3

(※1) 令和2,3年は新型コロナウイルス感染症の影響によりデータがなく、令和4年は長期滞在者に結果が偏っていることから、令和2～4年は直近で代替となる令和元年のデータを使用。

(※2) 訪日外国人が一日2食（入国日、出国日については1食）、1回あたり78gの精米を消費すると仮定。滞在期間における消費量を玄米ベースで算出。

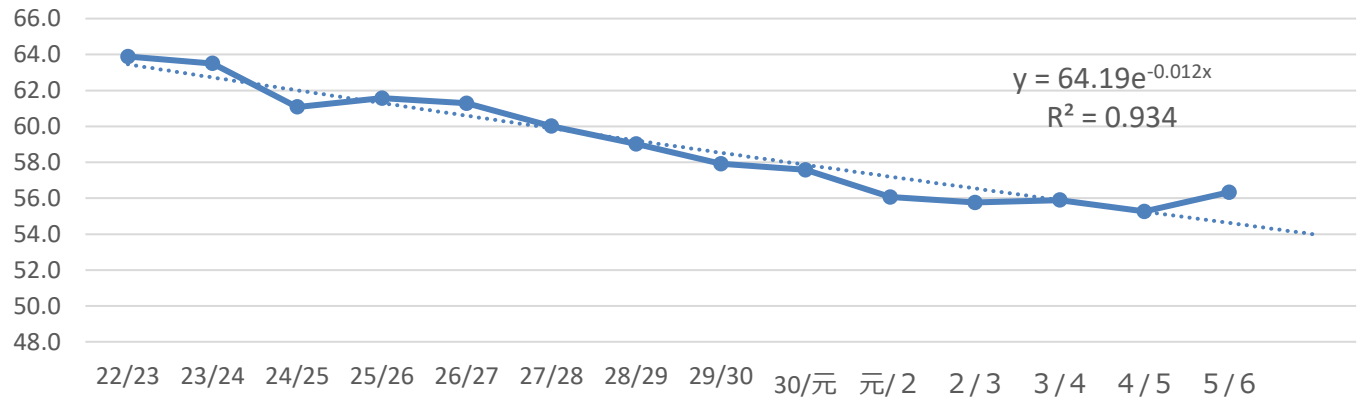
(FAOデータにおいて外国人一人当たりの供給カロリーが日本人の1.2倍であることに基づき設定。)

訪日外客数：訪日外客統計（JNTO）

平均泊数：インバウンド消費動向調査（観光庁）

需要見通しの様々な角度からの検証 ①インバウンド

インバウンド需要量を控除した1人当たりの年間消費量の推計 (kg)



年	インバウンド 需要量を 控除した 1人当たりの 年間消費量	人口	インバウンド 需要量を 控除した 需要量	インバウンド 需要量 (1)R5年を定数	(1)国内需要量	インバウンド 需要量 (2)H28～R元、 R5年の平均値 を定数	(2)国内需要	インバウンド 需要量 (3)30/元から R5/6の訪日 外客数伸び率	(3)国内需要
	①	②	③ = ①*②	④	⑤ = ③ + ④	⑥	⑦ = ③ + ⑥	⑧	⑨ = ③ + ⑧
	kg	千人	万トン	万トン	万トン	万トン	万トン	万トン	万トン
28/29	59.0	127,042	750	4.2	754	4.2	754	4.2	758
29/30	57.9	126,919	735	4.5	740	4.5	740	4.5	744
30/元	57.6	126,749	730	4.8	735	4.8	735	4.8	739
元/2	56.1	126,555	710	4.8	714	4.8	714	4.8	719
2/3	55.8	126,146	703	0.6	704	0.6	704	0.6	705
3/4	55.9	125,502	701	0.0	702	0.0	702	0.0	702
4/5	55.3	124,947	691	0.6	691	0.6	691	0.6	692
5/6	56.3	124,352	701	4.4	705	4.4	705	4.4	709
6/7	54.0	123,780	668	4.4	673	4.5	673	4.4	673

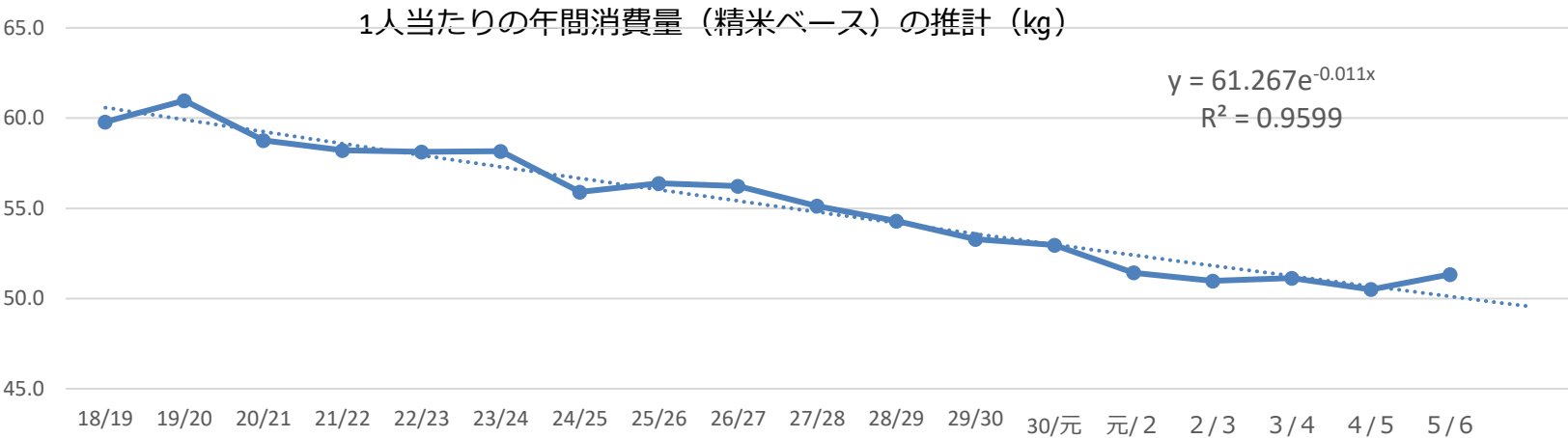
需要見通しの様々な角度からの検証 ②精米ベース

○ 玄米ベースの需要実績に農産物検査の等級比率をもとに試算した歩留まり減少率を乗じて精米ベースの需要を推計。精米ベースで国内1人当たりの年間消費量を推計。

年	需要実績 (玄米ベース)	人口	歩留まり減少率 (推計) (※)	需要実績 (精米ベース)	1人当たりの年間消費量 (精米ベース)
	①	②	③	④=①*③	⑤=④/②
	万トン	千人		万トン	kg
22/23	820.0	128,057	90.8%	744	58.1
23/24	813.3	127,834	91.4%	744	58.2
24/25	781.1	127,593	91.3%	713	55.9
25/26	786.6	127,414	91.3%	718	56.4
26/27	782.5	127,237	91.4%	715	56.2
27/28	766.2	127,095	91.4%	701	55.1
28/29	754.0	127,042	91.5%	690	54.3
29/30	739.6	126,919	91.5%	676	53.3
30/元	734.6	126,749	91.4%	671	53.0
元/2	714.4	126,555	91.1%	651	51.4
2/3	704.0	126,146	91.4%	643	51.0
3/4	701.5	125,502	91.5%	642	51.1
4/5	691.1	124,947	91.3%	631	50.5
5/6	704.9	124,352	90.6%	638	51.3

(※) 農産物検査の等級比率をもとに試算

需要見通しの様々な角度からの検証 ②精米ベース



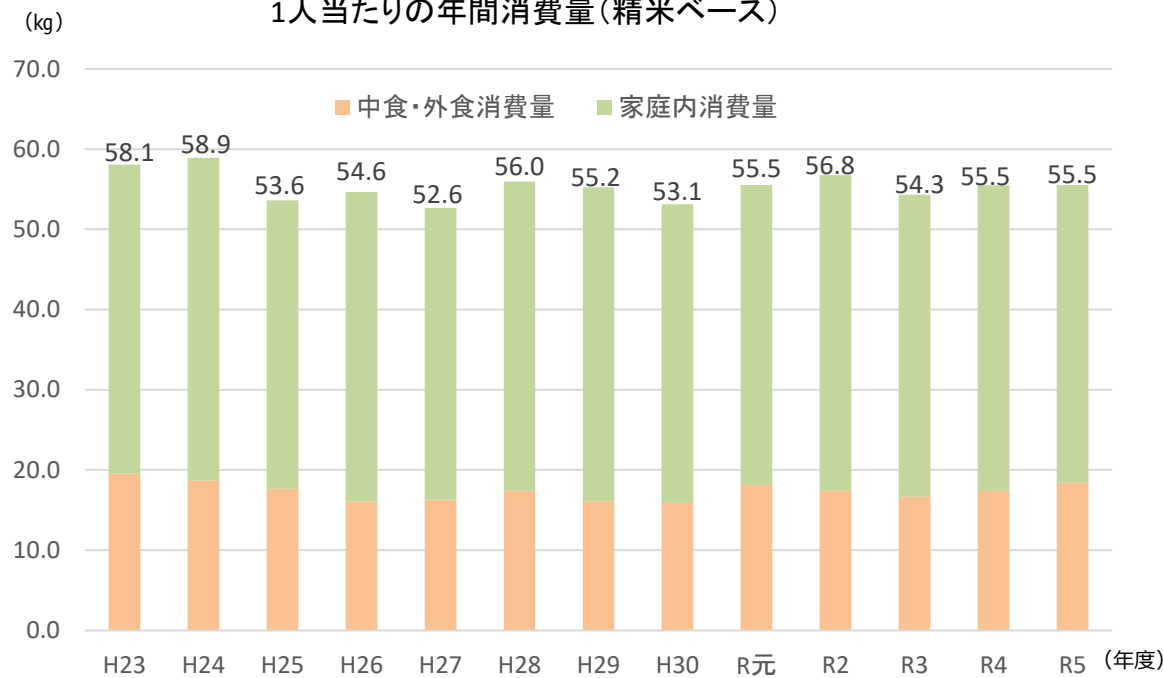
年	1人当たりの 年間消費量 (精米ベース)	人口	需要 (精米ベース)	需要 (玄米ベース)
	①	②	③ = ①*②	④
	kg	万人	万トン	万トン
28/29	54.3	127,042	690	754
29/30	53.3	126,919	676	740
30/元	53.0	126,749	671	735
元/ 2	51.4	126,555	651	714
2 / 3	51.0	126,146	643	704
3 / 4	51.1	125,502	642	702
4 / 5	50.5	124,947	631	691
5 / 6	51.3	124,352	638	705
6 / 7	49.6	123,780	614	677 (推計値)

↓
54.7 (歩留まり率90.6%として玄米ベースを算出)

需要見通しの様々な角度からの検証 ③精米ベース(参考)

- 消費者の毎月の米の消費状況を把握することを目的として、米穀機構が「米の消費動向調査」を実施。
- 1年間の一人当たり消費量に換算したところ、H23～R5年度の13年間で大きな変化は見られない。

1人当たりの年間消費量(精米ベース)



【調査方法】

- 調査対象世帯数は月平均約2,000世帯(農林漁家世帯は除く)
- 12か月間毎月継続してアンケート調査を実施
- 1人1か月あたり家庭内消費量:

$$\frac{((\text{月初精米在庫量} + 1\text{か月間購入・入手精米量}) - \text{月末精米在庫量})}{\text{世帯人員}} \times 30$$

- 1人1か月あたり中食・外食消費量:

普通サイズのお茶碗1杯＝精米65gとして7日分の合計消費量から、1か月分(30日分)の消費量を推計

【参考】

(年間消費量合計)

回帰式	$y = -0.1116x + 56.149$
決定係数(R ²)	0.0574
平均値	55.4
標準偏差	1.74

(中食・外食消費と家庭内消費)

	中食・外食	家庭内
回帰式	$y = -0.0592x + 17.786$	$y = -0.0524x + 38.363$
決定係数(R ²)	0.0412	0.0277
平均値	17.4	38.0
標準偏差	1.09	1.18

需要見通しの様々な角度からの検証 ③マクロ

○ 過去の需要実績からトレンドにて見通しを推計。（平成30年7月までの推計方法）

年	需要実績 (万トン)
8/9	944
9/10	913
10/11	907
11/12	886
12/13	912
13/14	872
14/15	895
15/16	862
16/17	865
17/18	852
18/19	837
19/20	855
20/21	824
21/22	814
22/23	820
23/24	813
24/25	781
25/26	787
26/27	783
27/28	766
28/29	754
29/30	740
30/元	735
元/2	714
2/3	704
3/4	702
4/5	691
5/6	705
6/7	682 (推計値)

